TOYOTA AUTO BODY

COMS

P・COM／B・COM

OWNER'S MANUAL

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読みください。
いつまでも大切に保管してください。

目次

1. 必ず読みましょう　確認しましたか？ …… 1
危険です！ …… 3
走行するときは！ …… 5
点検を受けてください！ …… 9
長くお使い頂くためには！ …… 10

2. 警告・使用方法ラベルの種類と貼付け位置 …… 11

3. 充電装備　（1）充電方法 …… 13
（2）充電に関する装備 …… 13
（3）充電表示灯について …… 14
（4）充電時の注意事項 …… 14
（5）充電のタイミング …… 17
（6）気温の影響での注意事項 …… 17
（7）充電の方法 …… 18
（8）バッテリーについて …… 20

4. 安全装置（シートベルト） …… 21

5. 操作装置　（1）メーターの見方 …… 24
（2）表示灯・警告灯の見方 …… 25
（3）視界の確保 …… 26
（4）運転装置 …… 28

6. 快適装備　（1）収納装備 …… 31
（2）その他の装備 …… 32
（3）車両仕様別装備 …… 33
（4）オプション部品 …… 36

7. 運転操作　（1）走行する前に …… 49
（2）走　行 …… 50
（3）停　車 …… 51
（4）駐　車 …… 52

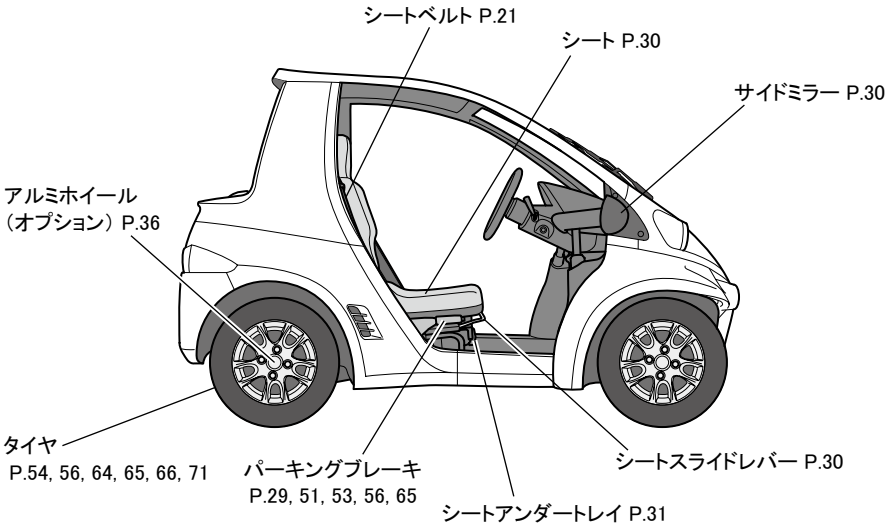
8. 寒冷時の取扱い …… 53

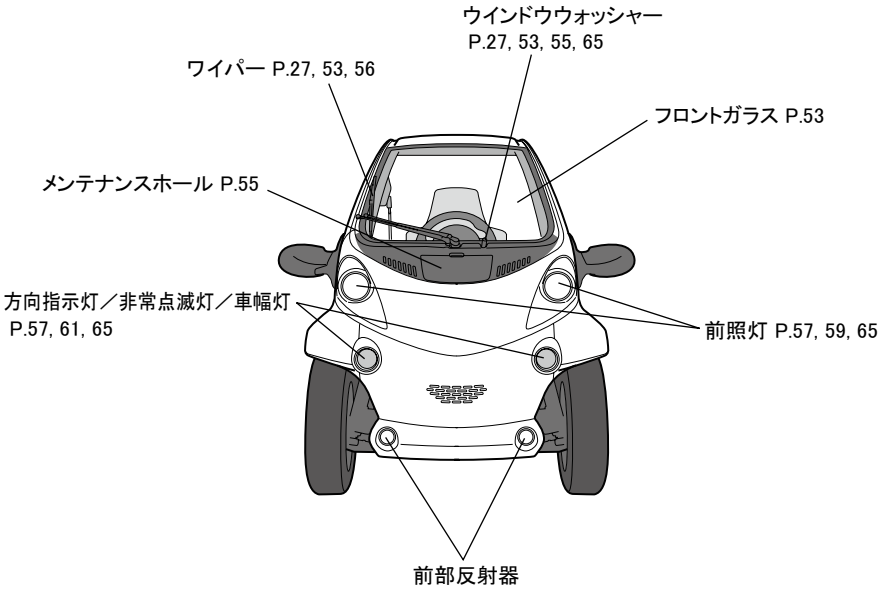
9. メンテナンス　（1）日常点検 …… 55
（2）お手入れ …… 58
（3）電球（バルブ）の交換 …… 59
（4）その他の点検整備 …… 64
（5）メンテナンスデータ …… 65

10. 万一の場合　（1）警告機能 …… 67
（2）けん引 …… 70
（3）固縛ポイント …… 71
（4）ジャッキアップ …… 71

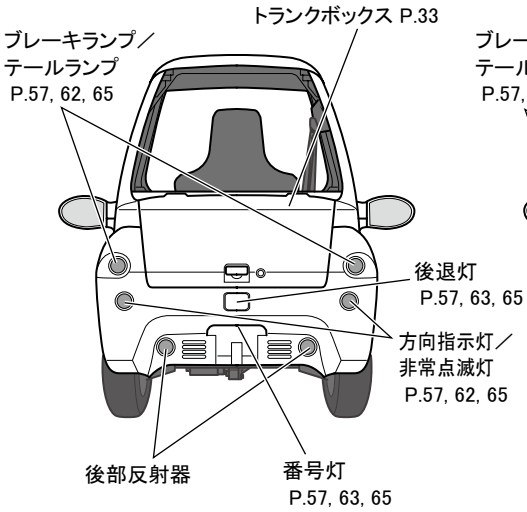
イラスト目次

〔外観図〕

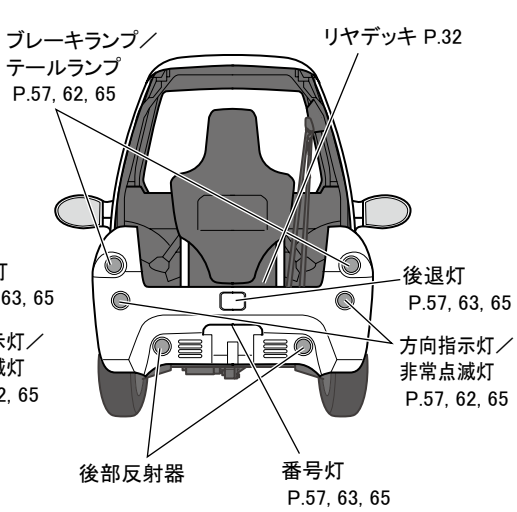

シートベルト P.21
シート P.30
サイドミラー P.30
アルミホイール
（オプション）P.36
タイヤ
P.54, 56, 64, 65, 66, 71
パーキングブレーキ
P.29, 51, 53, 56, 65
シートアンダートレイ P.31
シートスライドレバー P.30


ウインドウウォッシャー
P.27, 53, 55, 65
ワイパー P.27, 53, 56
フロントガラス P.53
メンテナンスホール P.55
方向指示灯／非常点滅灯／車幅灯
P.57, 61, 65
前照灯 P.57, 59, 65
前部反射器

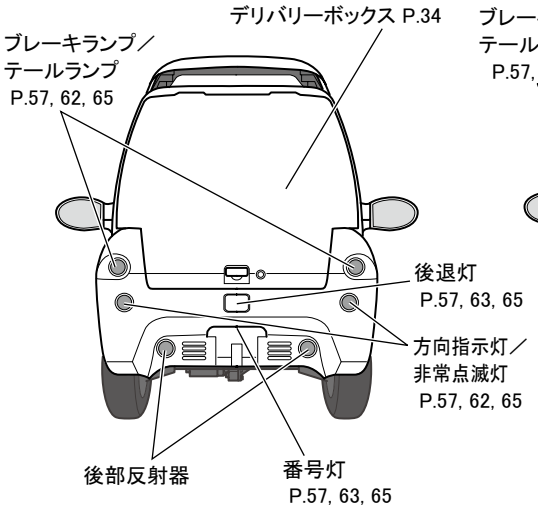
〈P·COM〉



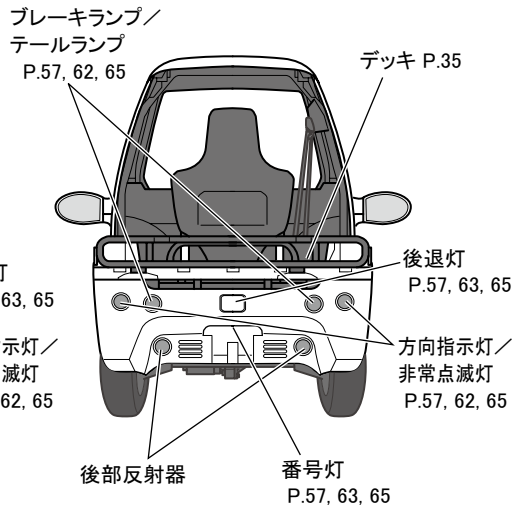
〈B·COM ベーシック〉



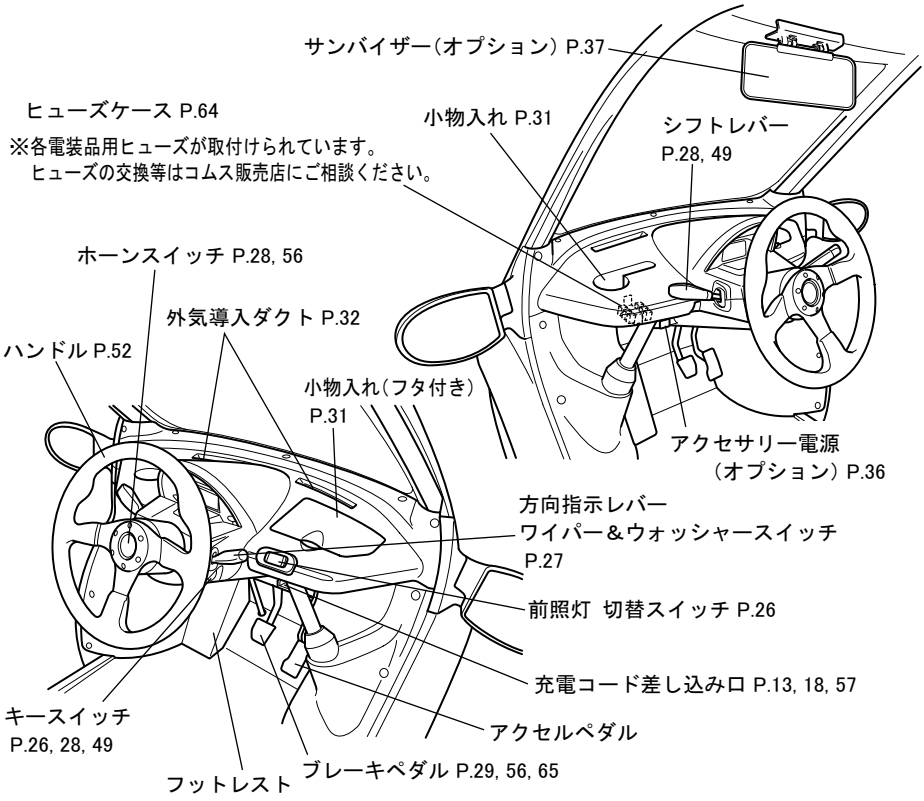
〈B·COM デリバリー〉



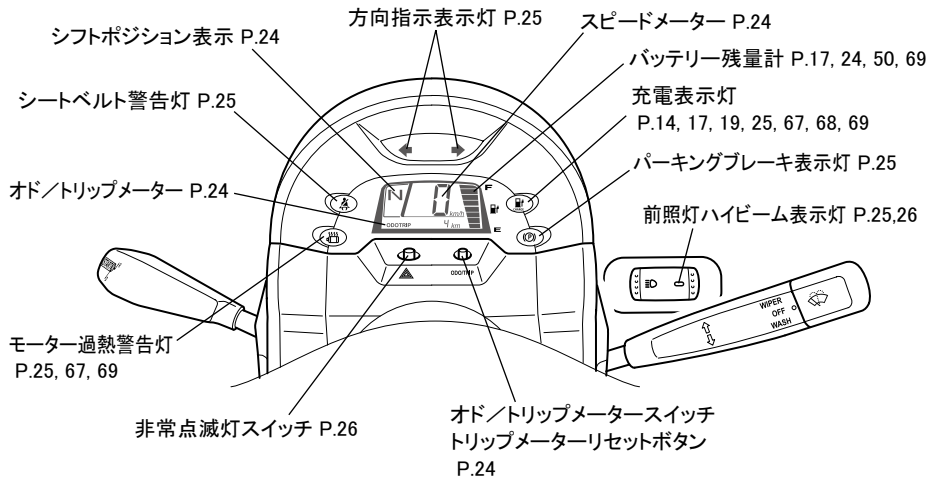
〈B·COM デッキ〉



〔運転者席付近配置図〕



〔スピードメーター周辺の表示〕



知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
その為、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更より、内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
イラストは、記載している仕様等の違いにより、お客様の車の装備や色と一致しない場合があります。
コムスには、電気自動車独自の取扱い方がありますのでご使用前によくお読みいただき、手引きとして車両（シートアンダートレイ）に保管してください。

◇コムスは道路運送車両法上、第一種原動機付自転車（四輪）となります。
ご当地ナンバーなどを発行している一部自治体を除いて基本的には**水色ナンバー**となります。
原動機付自転車（白色ナンバー）など誤って登録しますと、道路運送法違反及び軽自動車税の過少納付等と判断される可能性があります。

◇コムスは道路交通法上、ミニカーに分類され普通自動車扱いとなります。運転する場合は普通自動車の運転免許証が必要です。

◇コムスを貸したり、譲り渡す場合は、この取扱説明書を必ず添えてお渡しいただき、ご使用前にお読みいただくようお伝えください。

◇コムスの改造は、故障や重大な事故の原因となりますので、絶対にしないでください。
改造に起因する損害は保証の対象外となります。

◇品質改良や仕様変更などにより、この取扱説明書の記載内容が、お手元の製品と一部異なることがございます。あらかじめご承知おきください。

◇保証書、メンテナンスノートはよくお読みになり、保証書の販売店名・捺印を確認された上、大切に保管してください。

◇ご不明な点、不都合がございましたら、早めにお買い上げいただいたコムス販売店、もしくはトヨタ車体へお気軽にご相談ください。

安全に関する表示

安全にお使いいただく為に、特に重要な事項ですのでしっかりお読みください。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、コムスが損傷するなどの恐れがあります。

⚠危険	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるもの。かつその切迫の度合が高い危害の程度、但しこの表示は限定的で使用し、多用しない。
⚠警告	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う恐れのあるもの。
⚠注意	その指示に従わなかった場合、軽傷を負うかまたは物的損害が発生する恐れのあるもの。ただし、状況によっては重大な結果につながる場合がある。
チェックポイント	操作・保守点検をするときの一般的な注意事項で、製品自体の損害を防ぐ為の注意事項も含む。
	絶対に行わないでください。
	必ず指示に従い、実施してください。

※上記中の損害の程度の意味は、下記のとおりです。

重　傷　：　生命の危険はないが、ケガ・火傷・感電・骨折等で後遺症が残る可能性があるもの、および治療に入院や長期の通院を要するもの（全治１ヵ月以上）。

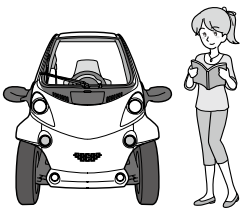
軽　傷　：　軽微なケガで治療に入院や長期の通院を要さないもの（全治１ヵ月未満）。

物的損害：　家屋・家財および家畜やペットなどにかかわる損害。ただし、コムス自体のみの損害（自損）は含まれない。

1．必ず読みましょう

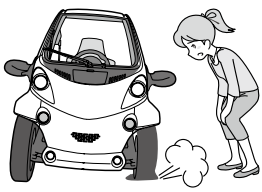
確認しましたか？

◇日常点検の実施 ――――― 日常点検は必ず実施してください。



コムスを安全にお使い頂く為、法令に準じ、日常のお車の使用状態に応じて、お客様の判断で行う点検です。
P. ５５またはメンテナンスノートをお読みになり、その指示に従ってください。

◇タイヤ空気圧の点検 ――――― 空気圧不足のまま走行すると、思わぬ事故につながる事がありますので、乗車する前に必ず点検してください。

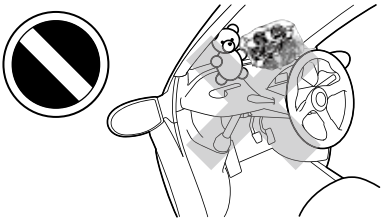


◇ペダルの位置と操作 ――――― ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながりますので、走行前にペダルの位置を確かめ、アクセル・ブレーキペダルを右足で操作してください。

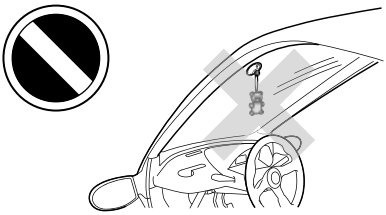
◇シフトレバーの確認 ――――― キースイッチを ON にするときは「N」、前進するときは「D」、後進するときは「R」の位置にある事を確認してください。
操作時は常にブレーキを踏み、車両が停止しているときに行ってください。

◇ブレーキの効きを確認 ――――― 走行前にブレーキの効き具合を、低速で発進させて確かめてください。
慣れるまでに無理な走行は避け、車間距離を十分とってご使用ください。

◇インストルメントパネルの上に物を置かない ——— 視界のさまたげになったり、走行中に動いて安全運転のさまたげになる恐れがあります。
トランクボックスやデリバリーボックスまたは、各収納スペースに入れてください。



◇フロントガラス等に吸盤（透明）をつけない ——— 吸盤がレンズの働きをして、火災になる恐れがあり危険です。

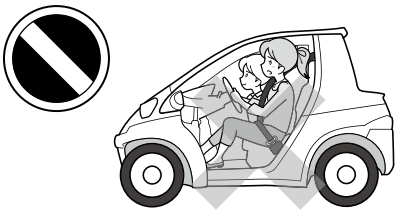


◇危険物の持ち込み禁止 ———

・トランクボックスやデリバリーボックスまたは、各収納スペースに、燃料等の入った容器（ライター、カセットボンベ等）、スプレー缶類を収納しないでください。
万一のとき引火や爆発する恐れがあります。
・プラスチック素材の物、眼鏡等を収納しないでください。
変形・傷付き・ひび割れを起こす場合があります。

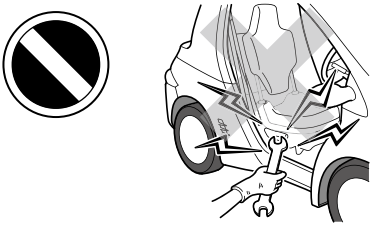
危険です！

◇２人以上で乗車しない



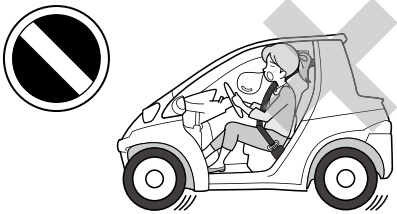
この車両は１人乗りですので、運転者以外（子供を含む）は同乗させないでください。
道路交通法に違反することは勿論、運転者以外は体を固定する装置がない為に走行中振り落とされる危険が考えられます。

◇高電圧部の点検整備



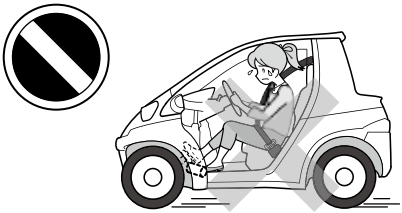
コムスは DC72V の電源で走行する車両です。
むやみに分解しないでください。感電して大ケガ、または生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。
点検整備はコムス販売店へご相談ください。

◇薬を飲んだとき



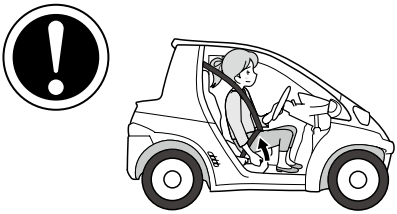
かぜ薬等の眠気を催すような薬を飲んだ後は、運転を避けてください。思わぬ事故を招きます。

◇運転席足元に物を置かない



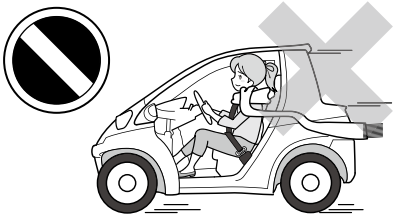
・ ブレーキペダルや、アクセルペダルに物が挟まるような事があると、ペダル操作ができなくなり、思わぬ事故につながる恐れがあります。
・ フロアマットは敷かないでください。

◇駐車するときは



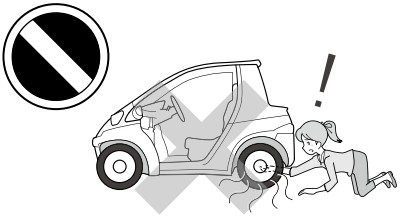
無人で車が動き出す等の思わぬ事故につながる事がありますので、パーキングブレーキは確実にかけてください。タイヤの輪止めも効果的です。

◇**衣服は体にフィットした物** ――――― 走行中に衣服が、風等の理由で車外へ出ないものを着用してください。



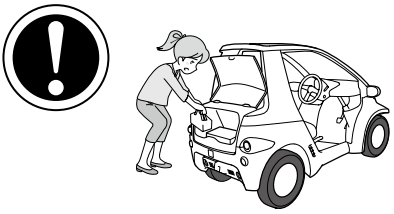
木の枝や、対向車両に引っかかり思いもよらないケガをすることがあります。また、長めのマフラー等が後輪に巻き込まれたりすると、重大な傷害を受ける恐れがあります。

◇**高温部への接触禁止** ――――― モーターおよび充電器・灯火器類等の高温になる部分には不用意に触れないでください。

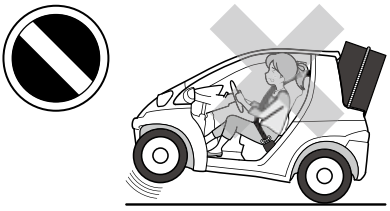


コムスの機器には、走行や充電により温度が高くなる部分があり、接触することにより火傷をする恐れがあります。

◇**荷物は収納してください** ――――― 手荷物や荷物は、トランクボックスやデリバリーボックスまたは、各収納スペースに入れてください。荷物がはみ出したり、荷崩れしないように収納してください。



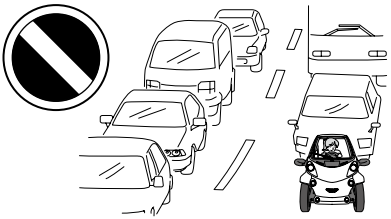
◇**積載オーバーしない** ――――― 積載物の重量は、30kg（法で決められた）以下にしてください。



車両の機能に影響し故障の原因になり、運転操作に支障をきたし事故を招く恐れがあり非常に危険です。

走行するときは！

◇道路交通法を守って

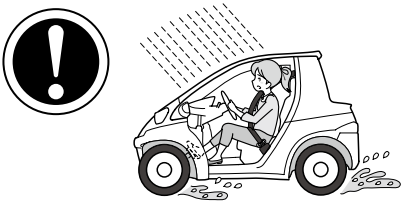


コムスで公道を走行するときは、一般乗用車と同じように、交通ルールを守って安全運転に心掛けてください。ただし､コムスは第一種原動機付自転車（四輪）ですので、自動車専用道路（高速道路等）の走行はできません。

◇シートベルトを必ず着用

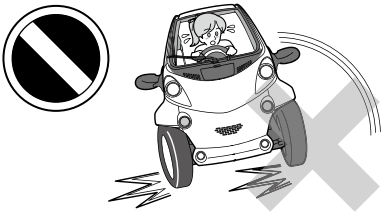
シートベルトは正しく着用しないと、効果が十分発揮できなくなり、重大な傷害を受ける恐れがあります。正しい着座姿勢で正しく着用してください。
シートベルト着用をご確認のうえ運転してください。

◇雨天時は速度を落とす



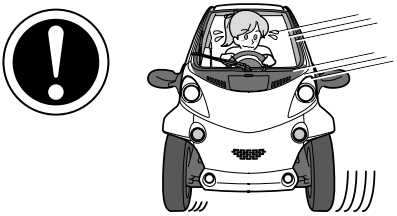
・雨等で路面が濡れていると通常より滑りやすくなるので、速度は控えめに走行してください。また、冠水路等の深い水たまり（１０cm 以上）の走行は避けてください。
機器への水入り等による車両故障につながる恐れがあります。
・ブレーキが濡れると、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

◇転倒の危険にご注意ください



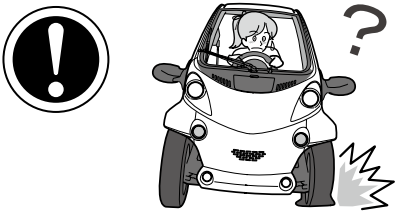
スピードが出すぎた状態で**急ハンドルや急ブレーキ**をすると、転倒やスリップの恐れがあり非常に危険です。
旋回する前に十分な減速（ブレーキング）をし、確実に安全なスピードで安全なハンドル操作で走行してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇横風が強いとき



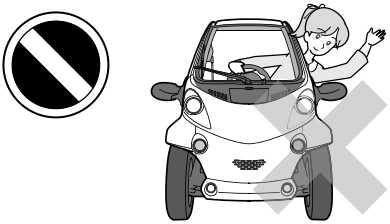
横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握りスピードを落としてください。
トンネル出口、橋の上等の横風が強い所での走行は十分に注意してください。

◇**走行中、タイヤに異常**



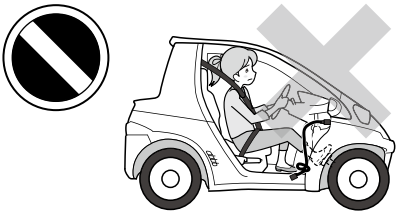
・走行中にタイヤがパンク、バーストしたときには、徐々にスピードを落として安全な場所に停車してください。
慌てて急ハンドル・急ブレーキを行うと車両がコントロールできなくなり危険です。
・スペアタイヤおよびジャッキは搭載されていません。コムス販売店などに連絡してください。

◇**手足を車外へ出さない**



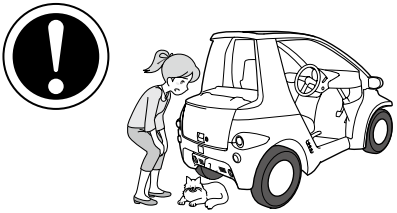
走行中はむやみに手や足等を車外へ出さないようにしてください。
木の枝や、対向車両に接触して思いもよらないケガをすることがあります。

◇**充電コードは外す**



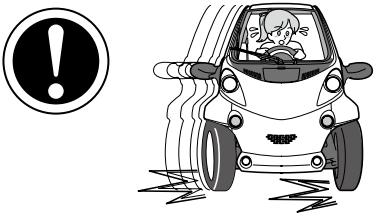
走行するときは、必ず充電コードを外してください。
車両側に充電コードが接続されたまま走行するのは、ペダルを操作する際とても邪魔になります。
充電終了後は直ぐにコードを家庭用電源・車両側の両コンセントから抜くようにしてください。
充電コードは雨露にさらされない場所（屋内など）で保管してください。

◇**後退するとき**



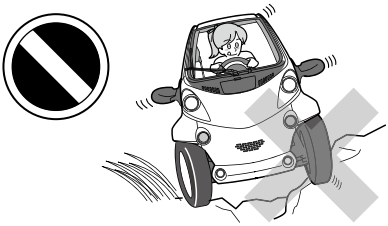
サイドミラーだけでは確認できない死角がありますので、車両に乗り込む前に人や障害物がない事を確認してください。

◇**滑りやすい路面は慎重に**



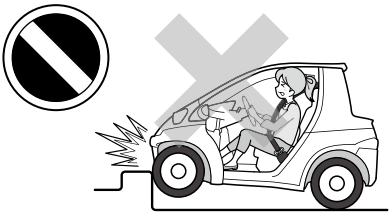
濡れた路面・凍結路・積雪路等では速度を落とし、急加速・急ブレーキ・急ハンドルは避けてください。
横滑り・転倒等の思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇**オフロードでの運転は避ける**



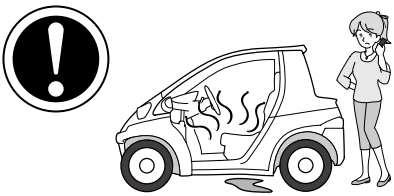
オフロード（整備されていない荒れた路面）での運転は避けてください。
車両に思わぬ衝撃が加わり、車両が故障する恐れがあります。

◇**縁石、段差のある場所は避ける**



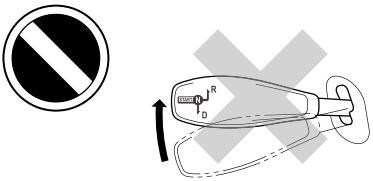
縁石、段差のある歩道に乗り降りする運転は避けてください。
車両に思わぬ衝撃が加わり、車両が故障する恐れがあります。

◇**走行中に異常があったら**



床下に強い衝撃を受けたとき、異常音・異臭がする等コムスに異変を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、車両を点検してください。
液漏れや破損等が見つかった場合は、そのまま使用せずコムス販売店等に連絡ください。

◇**下り坂では回生ブレーキを併用する**



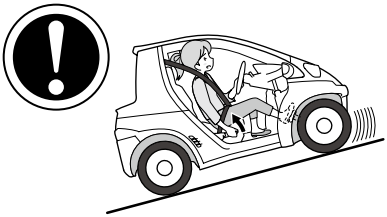
下り坂では、シフトレバーを「D」にしてください。
走行中にシフトレバーを「N」にすると、回生ブレーキが効かない為、停止距離が長くなり思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇**下り坂でブレーキの効きが悪くなったら**

下り坂でフットブレーキを多用すると、ブレーキが過熱し効きが悪くなります。
ブレーキの効きが悪いと感じたら、ただちに安全な場所に停車し、しばらくそのままにします。
ブレーキを冷却して、効きが回復してから走行してください。

◇クリープ現象に注意 ――――――――キースイッチが「ON」で、シフトレバーが「D」または「R」のとき、アクセルペダルを踏まなくても車両が動き出します。（クリープ現象）停車中はしっかりブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。

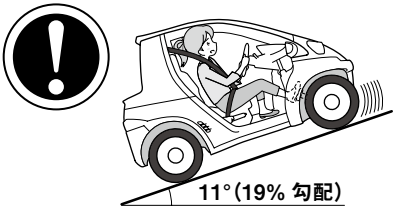
◇上り坂では後退に注意 ――――――――ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み変えたとき、一瞬後退する恐れがある為、発進時はパーキングブレーキを併用してください。



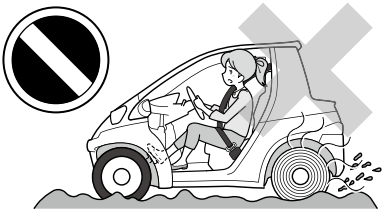
◇急な坂道での発進は後退に注意 ――――急な坂道での停止後に再発進する場合、発進できずに後退する場合があります。

坂道発進可能な最大角度：約 11°(約 19%勾配)

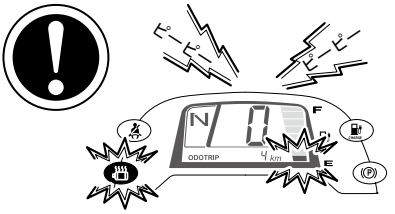
※バッテリー残量、装着オプション、路面状況、荷物や乗員の重さにより変動します。



◇スタック（立ち往生）したとき ――――スタックしたときは、タイヤを高速で回転させないでください。
タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながる恐れがあります。



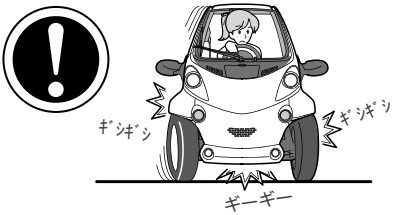
◇走行中に警告機能が働いたとき ――――警告灯が点灯・点滅したり、警報ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、コムス販売店に連絡してください。
そのまま走行すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
※バッテリー残量計が、３目盛以下になったときに警告音が鳴りますが、異常ではありません。



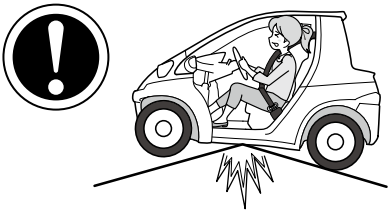
点検を受けてください！

以下の場合、速やかにコムス販売店で点検を受けてください。

◇ハンドル操作時に異音がするとき ――― ハンドル操作時に異音「ギーギー音、ギシギシ音等」がするときは、コムス販売店で点検を受けてください。

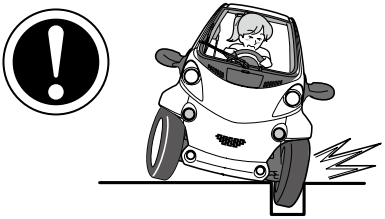


◇下廻りを路面等に当てたとき ――― 段差等で下廻りにダメージを受けた場合は、コムス販売店で点検を受けてください。



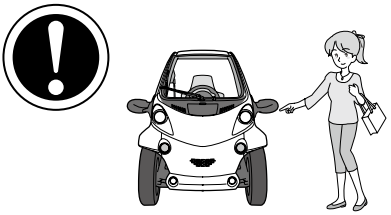
◇事故により車両に強い衝撃を受けたとき ――― 事故により車両に強い衝撃を受けたときは、修理しない場合でも、コムス販売店で点検を受けてください。

◇側溝などに脱輪したとき ――― 側溝などに脱輪したときや、足廻りにダメージを受けた場合は、コムス販売店で点検を受けてください。



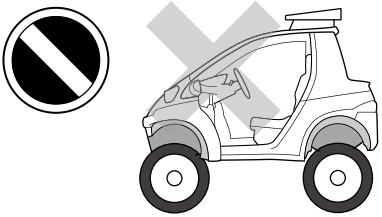
長くお使い頂くためには！

◇定期的な点検と整備



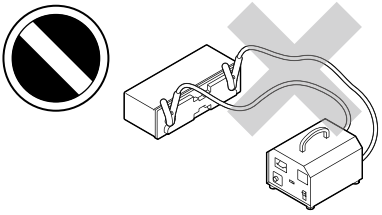
「日常点検」や１２ヵ月および２４ヵ月毎に販売店が行う「定期点検」は欠かさずに実施してください。点検を怠ると、故障や事故を招く恐れがあります。

◇違法改造はしない



車両の構造や機能に関係する改造や、トヨタ車体が指定する付属品以外の取付けは、操縦性を悪化させたり、車の寿命を縮める事があります。
違法改造は、法律に触れる事は勿論、他の人や車の迷惑になります。更に、改造による事故・損傷は保証対象外となります。

◇過充電・過放電はしない

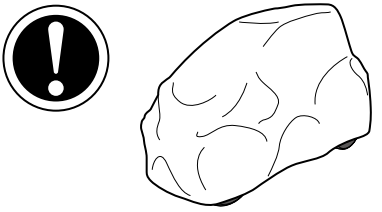


バッテリーは、過充電・過放電（駆動：50V 以下、補機：9V 以下）をすることによって極端に寿命が短くなってしまう特性があります。
長期間使用せず放置したままだったり、付属の充電器以外で充電（急速充電）しないでください。
充電は充電表示灯が緑色に変わるまで行ってください。

◇タイヤは指定の物を

タイヤ交換は四輪とも同時に行い、指定サイズ、パターン（溝）のものを装着してください。
摩耗差が大きかったり、指定のタイヤサイズと異なると車両性能を損なう原因になります。

◇保管について



コムスに乗らないときは、ボデーの変形・変色・制御機器の故障からコムスを守る為に、風雨やホコリ、直射日光を避けて保管してください。
合わせて、オプションのボディーカバーもご利用ください。

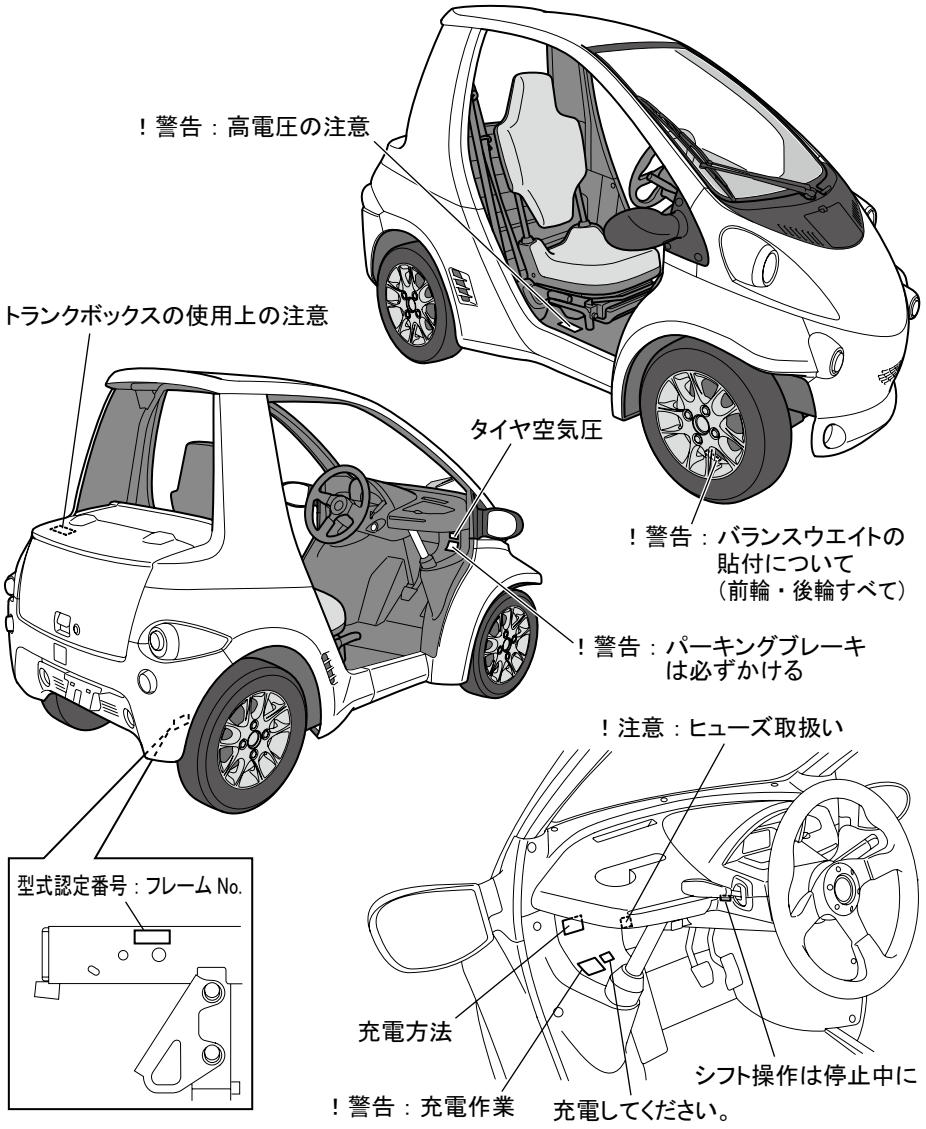
2. 警告・使用方法ラベルの種類と貼付け位置

本体には、安全にご使用頂く為に「警告ラベル」・「使用方法ラベル」を貼付けてあります。
ご使用される前に必ずご確認ください。

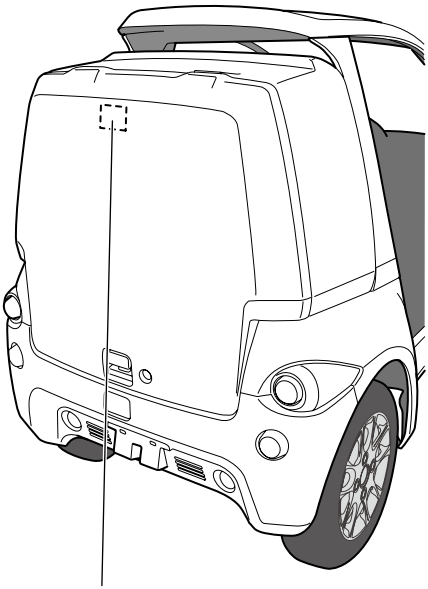
⚠注意

ラベル類の取外し、作り変え等はしないでください。
正規のラベルが貼られていないことにより、操作ミスを起こしたり、思わぬ事故の原因になる恐れがあります。

<P・COM>

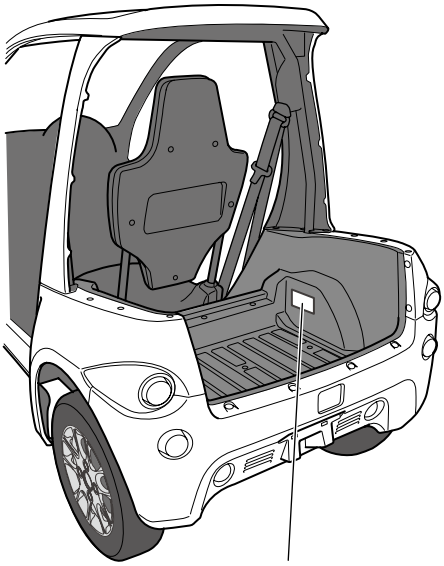


〈B･COM デリバリー〉



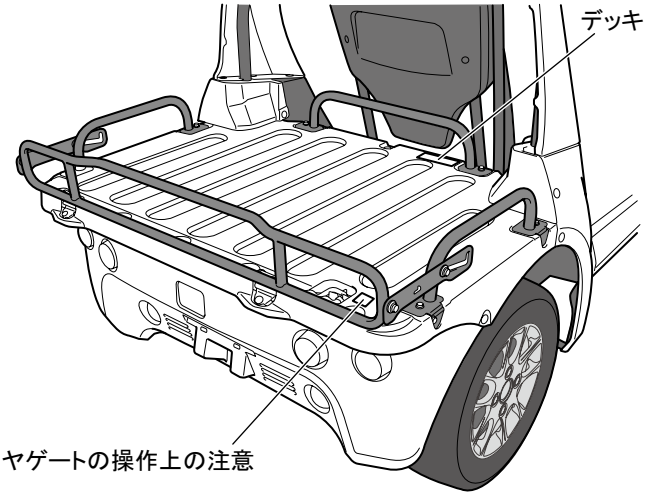
デリバリーボックスの使用上の注意

〈B･COM ベーシック〉



リヤデッキの使用上の注意

〈B･COM デッキ〉



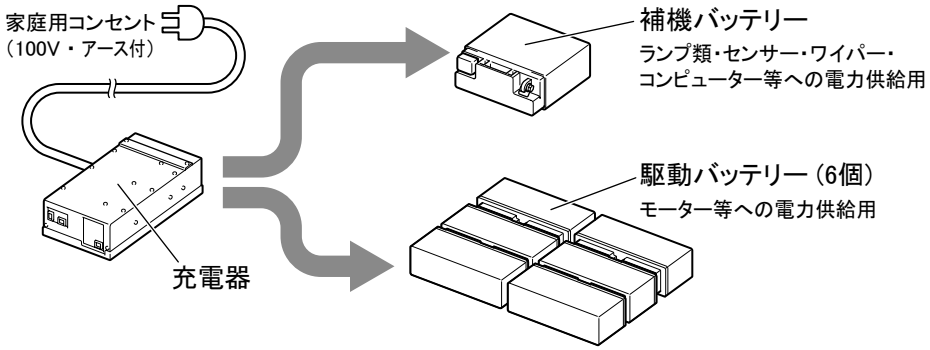
デッキの使用上の注意

リヤゲートの操作上の注意

3. 充電装備

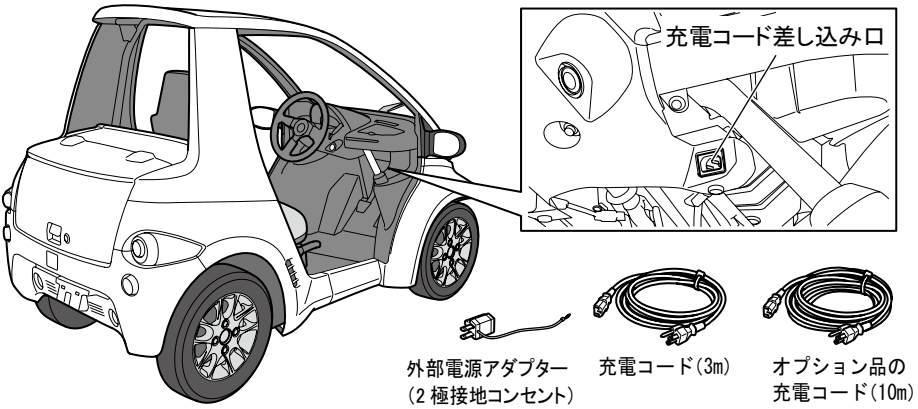
（1）充電方法

・ 家庭用 100V アース付きコンセントを接続すると、コムスに搭載されている充電器から、駆動バッテリー・補機バッテリーへの充電を行います。

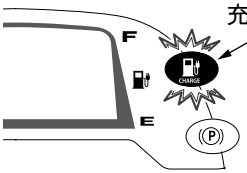


（2）充電に関する装備

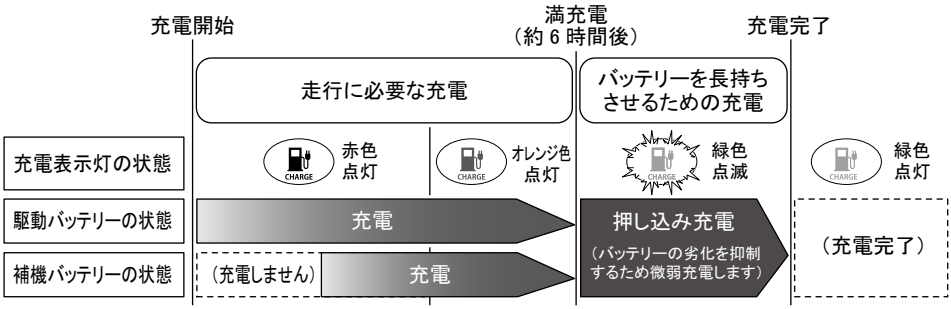
コムスには外部電源と車両を接続する充電コードが装備されています。



（3）充電表示灯について

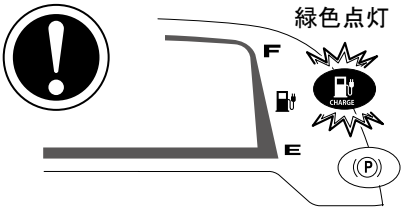


・充電中は、充電表示灯の色と点灯状態で状況をお知らせします。
・充電表示灯が赤色点滅している時は充電開始をしていません。再度、コンセントの接続を行ってください。
・コンセントを再接続しても、赤色点滅が解消されない場合は、コムス販売店に連絡してください。



（4）充電時の注意事項

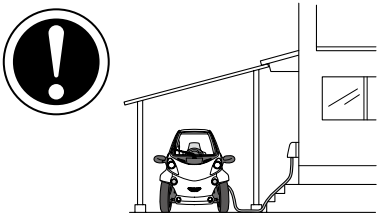
◇充電は走行終了後、毎日行ってください ――緑色点滅で満充電となりますが、緑色点灯になるまで充電を継続いただくと、バッテリーの劣化を抑制し、長持ちさせることができます。
上記による押し込み充電は、最低でも 1 週間に 1 回の実施をお願いいたします。



⚠警告

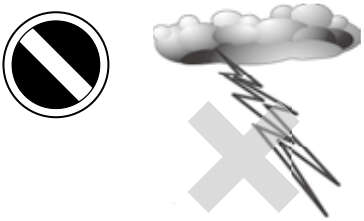
補機バッテリーの注意事項
- **補機バッテリーの電圧が低すぎるとコムスが故障と判断し、走行・充電ができなくなります。充電表示灯の赤色点灯範囲のみでの継ぎ足し充電は行わないでください。**
- **緑色点滅になるまで充電を行ってください。**
- **キースイッチが「OFF」の状態で、長時間ハザードランプ点滅やブレーキランプの点灯を続けると、補機バッテリーがあがり、走行・充電ができなくなります。（補機バッテリーの電圧が低すぎてコムスが故障と判断する）**
  また、一度あがったバッテリーは劣化していますので、補機バッテリーの交換をお勧めします。

◇充電方法



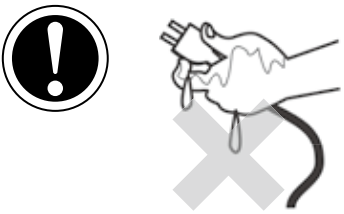
・家庭用 100V アース付きコンセントにつないで充電してください。
（JIS C 8303 2 極 接地極（アース）付き コンセント 15A 125V）
・現在、ほとんどの家庭には「漏電遮断器」が設置されていますが、無い場合には設置をお願いいたします。漏電遮断器が無い場合、感電、火災の原因となる恐れがありますので、必ず設置してください。

◇落雷が予測されるときは充電しない



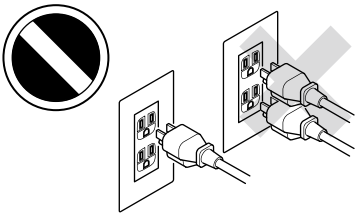
落雷によって、充電器等を破損する恐れがあります。落雷が予測されるときは、直ちに充電コードを抜き、充電を中止してください。

◇充電コードは、注意深く取り扱ってください



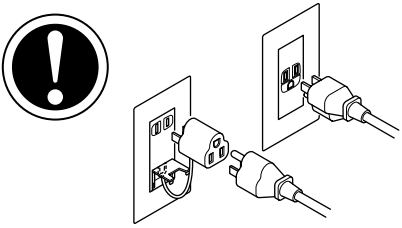
・手やコードが濡れているときは、乾いた布で十分拭き取ってから、電源コンセントにつないでください。
・コードは丁寧に扱い、深い傷や、差し込み部分を変形・破損した場合は、必ず交換してください。感電の恐れがあります。

◇充電コンセント



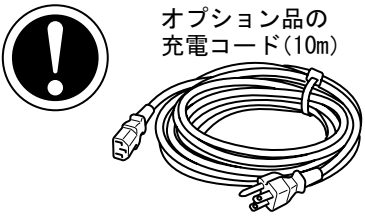
・最大 9.5A の電流が流れますので、1 ヵ所のコンセントはコムスで使用し、複数の電気製品はつながないでください。屋内遮断器が作動したり、発熱による火災の原因になります。
・専用の充電コードのみを使用してください。

◇アース線は必ずつなぐ



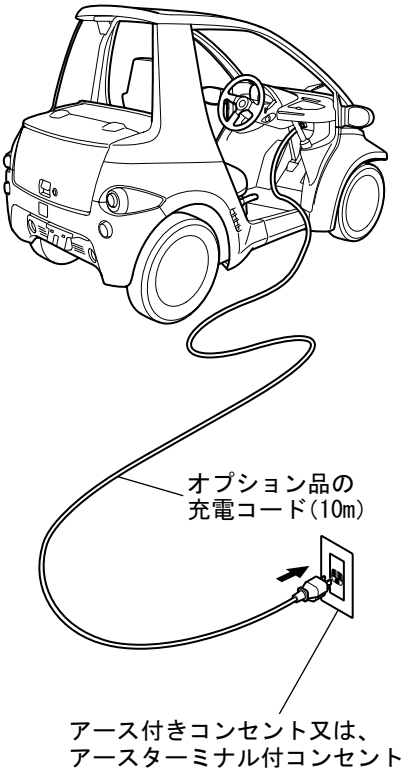
アース線は必ず接続してください。
接続されないと感電の恐れがあります。

◇充電場所が離れている場合 ――――――・装備されている充電コードは 3m です。
離れた場所にあるアース付きコンセントから充電する場合には、オプション品の充電コード（10m）をご利用ください。
・市販の延長コードのご使用は感電、火災の原因となる恐れがありますのでおやめください。



＜オプション品の充電コード（10m）を使用＞

オプション品の充電コード（10m）をアース付きコンセントに接続してください。



チェックポイント

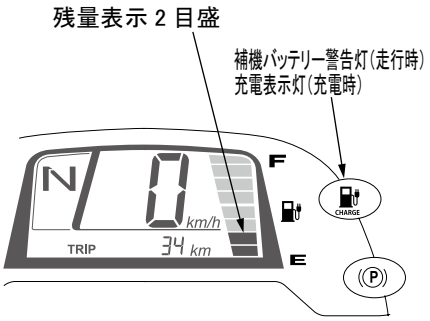
コムスは充電時に最大 9.5 A の電気を消費します。同時に電子レンジやヘアードライヤー等の消費電力の大きい電化製品を使用すると、ブレーカーが遮断する事がありますのでご注意ください。

⚠警告

- 充電は 1 つのコンセントに 1 台のコムス（充電コード）とし、タコ足配線にしないでください。
  電圧低下による充電不良や、発熱による火災の原因になります。
- アース線は必ず接続してください。感電の恐れがあります。
- 巻いた状態で使用しないでください。
- 雨露にさらされない場所（屋内など）で保管してください。

（5）充電のタイミング

バッテリー残量計が２目盛になったら、速やかに充電してください。



チェックポイント

- 残量表示が４目盛から３目盛、３目盛から２目盛、2目盛から１目盛になったときに、警告音として、断続ブザー（ピッピッピッ）で知らせます。ブザーは、それぞれの段階で３回、５回、５回で鳴り止みます。
- 残量表示が１目盛になってから点滅するまでの走行可能距離は約５～１５km※です。
- 走行時に補機バッテリー警告灯が点滅しましたら速やかに充電してください。（補機バッテリーの電圧が低いため）
- 残量表示が点滅（同時に断続ブザー音）してからの走行可能な時間は約３０秒です。その後、回路保護の為すべての電源がOFFになります。

※ バッテリーの状態、夏場、冬場など使用環境により走行距離が異なります。

（6）気温の影響での注意事項

⚠注意

● 充電時間は一般的な鉛蓄電池と同様に、残量や充電時の温度等でばらつきがあります。

下記の条件では充電システム保護の為、充電表示灯が赤色点滅して充電を行いません。

①夏場の炎天下――充電開始時または充電中にバッテリーの温度が約50℃を超えたとき

【対応方法】

①いったん充電コードを抜き、日陰などでバッテリーの温度を下げてから、再度充電を開始してください。

②直射日光が当たる場所や高温のアスファルト上での充電は避けて、日陰で充電を行ってください。

②冬場の低温時――充電開始時または充電中にバッテリーの温度がー 20℃を下回ったとき

【対応方法】

①いったん充電コードを抜き、屋内などでバッテリーの温度を上げてから、再度充電を開始してください。

※使用直後はバッテリー温度が外気温よりも温かい為、バッテリーが冷える前に充電開始することをお勧めします。

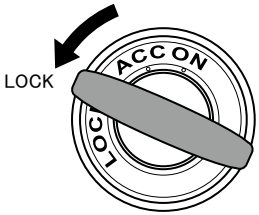
※低温時は充電量が低下し走行距離が低下します。充電量の低下はバッテリーが元々持つ特性であり、故障ではありません。

（7）充電の方法

1）パーキングブレーキをかけてコムスが動かない事を確認してください。

2）シフトレバーを「N（ニュートラル）」の位置にしてください。

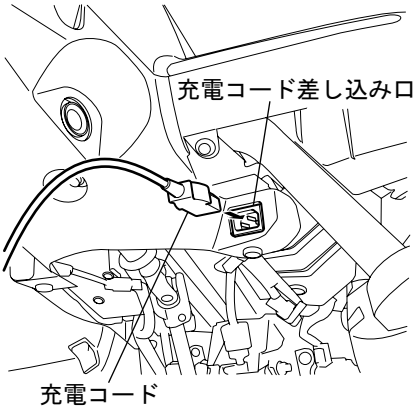
3）キースイッチを「ＬＯＣＫ」の位置にしてキーを抜いてください。



⚠警告

- **充電は屋根等があり、雨や雪がかからない所で行ってください。**
  機器の破損、または感電の恐れがあります。
- **充電中はイタズラされないようにご注意ください。**
  思わぬ事故やケガ、またはコムスの機器の故障原因になる恐れがあります。
- **落雷が予測されるときは、充電しないでください。**
  落雷によって、充電器等を破損する恐れがあります。

4）車両付属の充電コードを車両充電コード差し込み口に接続します。

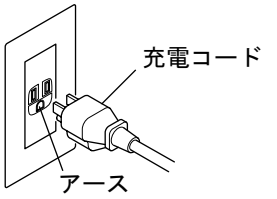


⚠警告

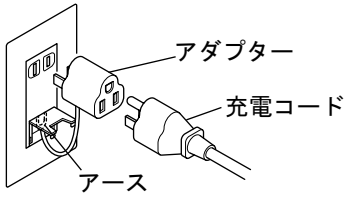
- **濡れた手で充電作業を行わないでください。**
  感電する恐れがあります。
- **各コードの差し込みは、しっかりと奥の方まで差し込んでください。**
  機器の破損、または漏電による感電の恐れがあります。
- **コードに深い傷や、差し込み部分が変形、破損した場合は、必ず交換してください。**
  感電する恐れがあります。

5）充電コードを家庭用 100V アース付きコンセントに差し込みます。
アース線は必ず接続してください。

＜アース付きコンセントの場合＞



＜アースターミナル付きコンセント＞



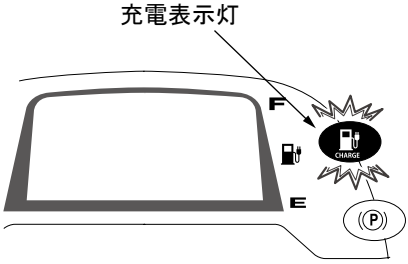
チェックポイント

コムスは充電時に最大 9.5 A の電気を消費します。同時に電子レンジやヘアードライヤー等の消費電力の大きい電化製品を使用すると、ブレーカーが遮断する事がありますのでご注意ください。

⚠警告

- **充電は１つのコンセントに１台のコムス（充電コード）とし、タコ足配線にしないでください。**
  電圧低下による充電不良や、発熱による火災の原因になります。
- **アース線は必ず接続してください。感電の恐れがあります。**

6）充電表示灯（赤色）が点灯し充電開始を表示されたことを確認してください。



チェックポイント

- **充電中はキースイッチの操作、警告音の作動やランプ類を点滅させないでください。充電を中断（充電エラー）する事があります。**
- **充電開始時に「ブーン」という音がしますが、充電器の冷却ファンの作動音であり、異常ではありません。**
- **充電表示灯が点灯しないときは、コムス販売店または電力会社へ連絡してください。**
- **充電時間は充電開始時のバッテリー残量によって異なります。残量ゼロに近い状態からの充電は約6時間程度かかります。**

7）充電が順調にすすみますと、充電表示灯の色が赤色からオレンジ色に変わります。さらに充電がすすみますと緑色点滅に変わります。

＊ 緑色点滅で満充電となり、走行可能です。そのまま充電を続けると緑色点灯になりバッテリーの劣化を抑えることができます。

チェックポイント

充電表示灯が赤色点滅しているときは充電異常です。
充電コードを抜き、操作を始めからやり直してください。それでも赤色点滅する場合はコムス販売店へご相談ください。

8）充電表示灯が緑色点滅から緑色点灯に変わった時点で充電完了です。
充電コードを各コンセント（コムス側および家庭用電源側）から抜いてください。充電表示灯が消灯します。

⚠注意

- **充電コードをコムス側コンセント（充電コード差し込み口）へ差し込んだまま走行しないでください。**
  ペダル操作の妨げになり思わぬ事故につながる恐れがあります。
- **充電コードを抜くときはプラグ部分を持って抜いてください。**
  コード部分を引っ張ると、中の線が切れて故障や事故の原因になります。

9）充電が終わった後は充電コードを雨露にさらされない場所（屋内など）で保管してください。

⚠警告

充電するときの警告
埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型両心室ペーシングパルスジェネレータを装着されている方は、車両を充電するとき、充電コードに埋め込み部位を近づけないようにしてください。
充電により、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型両心室ペーシングパルスジェネレータの作動に影響を与える恐れがあります。

（8）バッテリーについて

◇管理上の注意点

・ 過放電をしない為にも、充電のタイミングは守って充電を行ってください。
放電したまま放置すると、バッテリーの劣化を更に早めることになります。
・ 充電するときは、充電表示灯が緑色の点灯に変わるまで行ってください。
充電の中断（オレンジ色点灯、緑色点滅時）を連続して行い、走行するとバッテリーの劣化を早めることになります。
・ 長期間、放置（使用しない）するときは1ヵ月毎に充電してください。
常に満充電の状態にしておくことによりバッテリーの劣化を防止できます。

チェックポイント

・ コムスに搭載されている専用充電器以外は使用しないでください。
・ バッテリーが過放電（駆動：５０Ｖ以下、補機９Ｖ以下）することにより、充電が不可能になります。一度過放電になったバッテリーは新しいものと交換してください。

◇バッテリーの交換

バッテリーは使用経過と共に性能が低下していきます。性能が低下したときはバッテリーを交換してください。また、駆動バッテリーは6個全てを同時に交換してください。

⚠注意

**・ コムスに搭載の駆動バッテリー、補機バッテリーは専用品です。
点検整備、および交換等はすべてコムス販売店へおまかせください。**
・ 種類、容量の違うバッテリーに交換すると、故障や事故・火災等の原因となります。

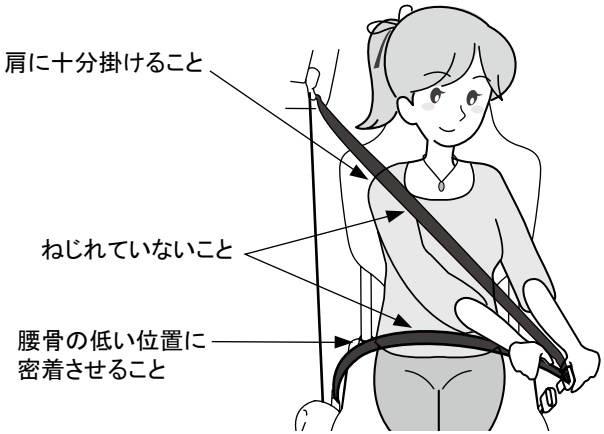
⚠危険

**コムス販売店の行う定期点検時以外は、バッテリーのカバーを外さないでください。
高電圧ケーブル（７２Ｖ）が配線されており、感電して大ケガ、または生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。**

4．安全装置（シートベルト）

◇正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用してください。



⚠危険

- ● コムスに乗る場合は、必ずシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- ● シートベルトを着用するときは必ず次のことをお守りください。守らない場合、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- ・ シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰をかけた状態で着用してください。
- ・ ３点式シートベルトの肩ベルトは、首に掛かったり脇の下を通らせたりして着用しないでください。必ず、肩に十分掛かるように着用してください。
- ・ シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトが腰骨から外れていると衝突時、腹部等に強い圧迫を受ける恐れがあります。
- ・ シートベルトはねじれが無いように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに受ける衝撃を十分に分散させることができません。
- ・ シートベルトを着用するときは、たるみを付けないようにしてください。
- ・ ハンドルや前方（インストルメントパネル）に必要以上に近づいて運転しないでください。
- ● シートベルトのバックルには異物が入り込まないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突時に十分な効果が発揮されず、重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- ● ほつれや、擦り切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは直ぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトは直ぐに新品と交換してください。そのまま使用すると十分な効果を発揮せず重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- ● シートベルトの改造や取付け、取外しなどをしないでください。衝突などのとき、十分な効果を発揮せず重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。取外しや、交換はコムス販売店にご相談ください。
- ● シートベルトの清掃にベンジンやシンナーなどの有機溶剤を使用しないでください。また、漂白したり染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突時に十分な効果を発揮せず重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾いてからお使いください。

◇3点式シートベルト

身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

1）シートに深く腰をかけ、背もたれから背を離さない状態で座ります。

2）プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確かめます。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを緩め、再度ゆっくりと引き出します。

3）プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

4）腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

5）肩ベルトは必ず肩に掛かるようにします。

6）外すときはバックルのボタンを押します。

チェックポイント

外したときにプレートがいきおいよく飛び出してくる恐れがある為、プレートをしっかり持ってゆっくり戻してください。

＊ コムスに乗らないときは、バックルにプレートを差しておくことをお勧めします。
バックルへの異物の入り込み防止になります。

◇妊娠中の方もシートベルトを着用してください

妊娠中の方も下記の要領でシートベルトを着用してください。

⚠警告

万一のとき、腹部等に強い圧迫を受ける恐れがありますので、シートベルト着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。
  腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、ケガをする恐れがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみを避け必ず胸部に着用してください。
  肩ベルトを腹部にかけていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、ケガをする恐れがあります。

◇疾患のある方もシートベルトを着用してください

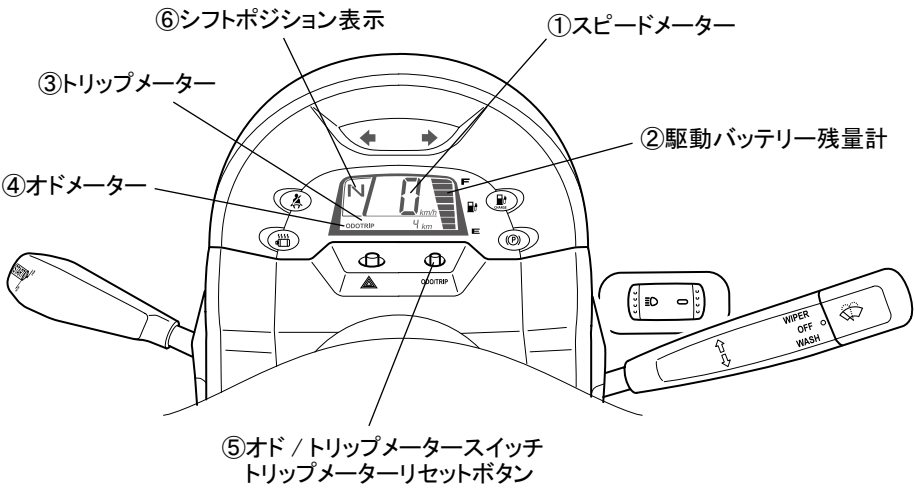
疾患のある方も、万一のときの為に、シートベルトを着用してください。

⚠警告

万一のとき、局部的に強い圧迫を受ける恐れがありますので、シートベルト着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

5．操作装置

（1）メーターの見方



チェックポイント

メーターパネルには硬い物を当てたり、むやみにこすらないでください。
汚れたときは柔らかい布で拭いてください。

①スピードメーター

車両の走行速度を「km/h」の単位で表示します。

②駆動バッテリー残量計

キースイッチが「ON」のときに、駆動用バッテリー6個の残量を8段階で表示します。

③トリップメーター（TRIP）

リセット後の走行した区間距離を「km」の単位で表示します。
最大値は 999.9km とし、超えた場合は 0 クリアとなります。

④オドメーター（ODO）

走行した総距離を「km」の単位で表示します。
最大値は 99999km とし、超えた場合は 0 クリアとなります。

⑤オド/トリップメータースイッチ トリップメーターリセットボタン

ボタンを押す毎に次のように表示が切り替わります。

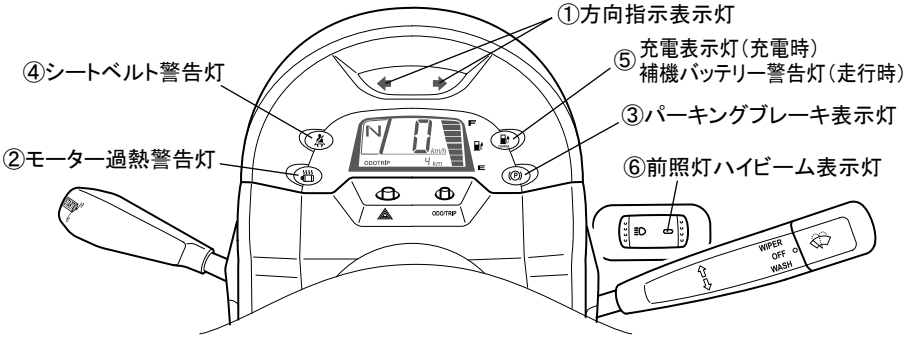
走行距離が 10 万km未満の場合	走行距離が 10 万km以上の場合
オドメーター（ODO）	オドメーター（ODO）
	10 万km超え表示
トリップメーター（TRIP）	トリップメーター（TRIP）

＊ トリップメーターを“0”表示に戻すときには、トリップメーターを表示させた状態でボタンを2秒ほど押し続けます。

⑥シフトポジション表示

選択しているシフト位置を表示します。

（2）表示灯・警告灯の見方



①方向指示表示灯

方向指示灯／非常点滅灯を作動させると点滅します。

チェックポイント

点滅が異常に早くなったときには、方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が正常に点滅しているか確認してください。

②モーター過熱警告灯

モーターの温度上昇を検出したときや、インバーターの温度上昇を検出したときに点滅・点灯します。

チェックポイント

モーター過熱警告灯が点滅・点灯したときは、風通しが良く他の通行車両に対し安全なところで冷却させ、キースイッチを差し直し再び「ON」にすると走行します。
連続してこの現象が発生した場合は、お近くのコムス販売店へご相談ください。

③パーキングブレーキ表示灯

パーキングブレーキレバーを引くことにより点灯します。

④シートベルト警告灯

シートベルト装着忘れ防止警告灯です。

⑤充電表示灯（充電時）

充電コードで、家庭用１００Ｖ電源に接続されることによって点滅・点灯します。
充電中はランプが点滅・点灯して、色で充電状態を示します。充電コードを抜くと消灯します。

＊ 充電表示灯の色と、点灯・点滅のタイミングは次の通りです。

・赤色点灯

駆動バッテリーの充電を開始します。

・オレンジ色点灯

充電が順調に行われていることを示します。

・緑色点滅

満充電です。
※走行に必要な充電です。

・緑色点灯

充電完了です。
※満充電＋バッテリーを長持ちさせる為の充電です。

・補機バッテリー警告灯（走行時）

補機バッテリー電圧が低下している時に点滅します。
点滅したときは、速やかに充電してください。

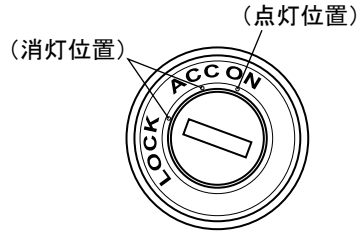
⑥前照灯ハイビーム表示灯

前照灯をハイビームにすると青色点灯し、ロービームにすると消灯します。

（3）視界の確保

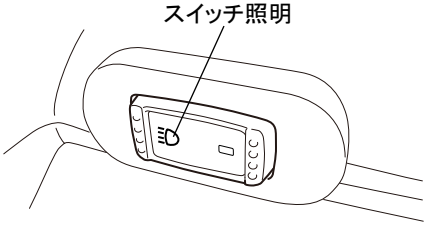
◇前照灯スイッチ（キースイッチ）

キースイッチ「ON」で前照灯が点灯して、「LOCK」または「ACC」で消灯します。



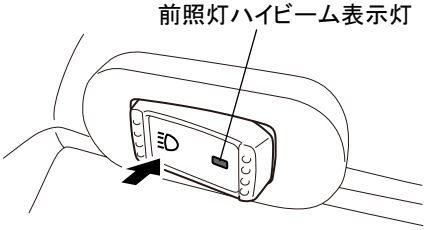
◇前照灯 切替スイッチ

キースイッチ「ON」（前照灯が点灯している状態）で前照灯 切替スイッチのスイッチ照明（前照灯マーク）が点灯します。

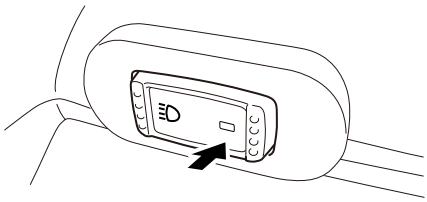


前照灯 切替スイッチを操作すると、前照灯がハイビームとロービームに切り替わります。

・左側を押すとハイビームになります。
（前照灯ハイビーム表示灯が青色点灯します。）



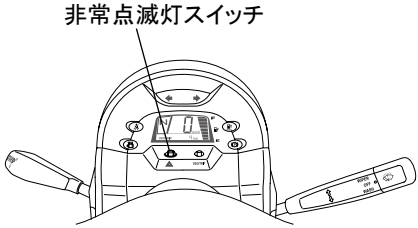
・右側を押すとロービームになります。
（前照灯ハイビーム表示灯が消灯します。）



◇非常点滅灯スイッチ

故障等でやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせる為に使用します。

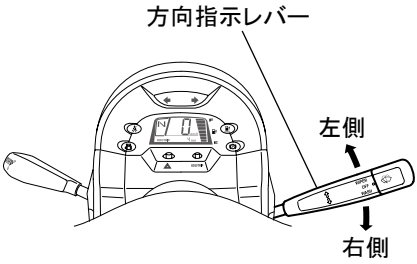
・スイッチを押すと全ての方向指示灯とメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
・もう一度押すと消灯します。



＊ 不必要に点灯を続けるとバッテリーが消費され、走行距離に影響しますのでご注意ください。

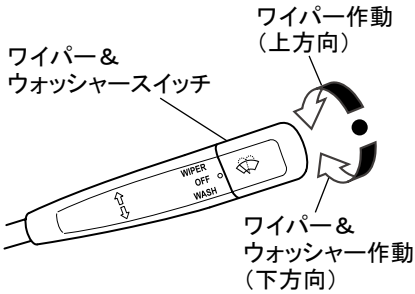
◇方向指示レバー

・レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。また、メーター内の方向指示表示灯も点滅します。
・レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。戻らないときには手で戻してください。



◇ワイパー＆ウォッシャースイッチ

方向指示レバー先端部にワイパー＆ウォッシャースイッチがあります。
・上方向に回すとワイパーが作動します。
・下方向に回すと、回している間ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが連動します。

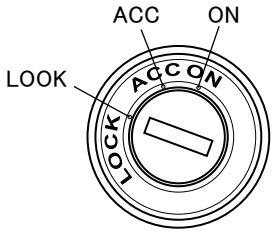


チェックポイント

- **汚れを落とすときは、必ずウォッシャー液を使用してください。フロントガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、フロントガラスを傷付けることがあります。**
- **ウォッシャー液が出ないとき、スイッチを回し続けるとポンプが故障する恐れがあります。液量や、ノズルの詰まりを点検してください。**
- **寒冷時は、ウォッシャー液がフロントガラスに凍り付き視界不良をおこす恐れがあります。**

（4）運転装置

◇キースイッチ（前照灯スイッチ）



［各位置の働き］

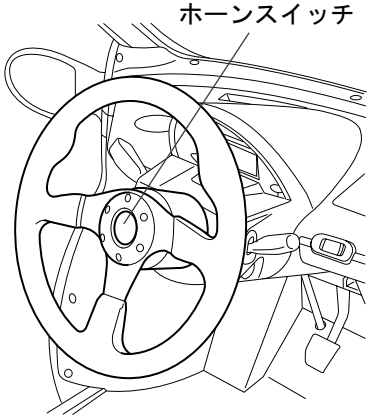
・ＬＯＣＫ：キーを抜き差しできる位置。
　キーを抜きハンドルを回すとハンドルがロック状態になります。
・ＡＣＣ　：けん引時に使用します。
・ＯＮ　　：走行可能状態になり、スピードメーター表示、前照灯などのライト類が点灯します。

チェックポイント

キースイッチを「ＬＯＣＫ」から「ＯＮ」方向へ回す際、キーが回りにくいときがあります。そのときは、ハンドルを左右に振りながらキーを回してください。

◇ホーンスイッチ

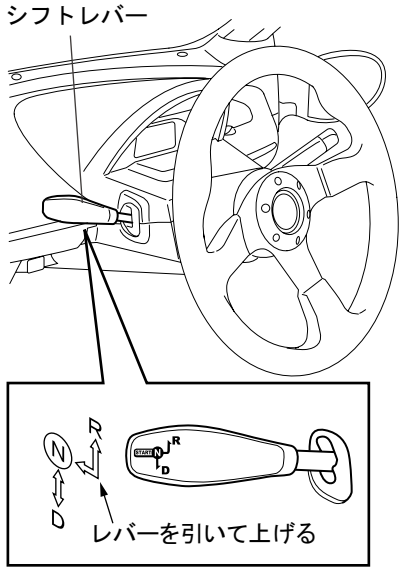
キースイッチが「ＯＮ」のとき、ハンドル中央のスイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。



◇シフトレバー

［各位置の働き］

・Ｒ（リバース）：後退走行のときのレンジです。
　“ピー、ピー、ピー”とブザーが鳴り、レンジが「Ｒ」であることを運転者に知らせます。
・Ｎ（ニュートラル）：駐車、停車するときのレンジです。
・Ｄ（ドライブ）：前進走行のときのレンジです。



チェックポイント

- **走行可能状態で３分間レンジを「Ｎ」から動かさないときは、節電機能が働き電源が切れます。そのとき、電源の切れる前３０秒間、警告として断続ブザーが鳴ります。復帰はキースイッチを入れ直してください。**
- **シフトレンジが今どの位置にあるかを、スピードメーターパネル内に「Ｒ・Ｎ・Ｄ」で表示します。**
- **コムスのシフトチェンジは一般乗用車と違います。シフトレンジを「Ｒ」または「Ｄ」にして、キーを抜いても車輪は固定されていない為、回転します。**
  駐・停車時は、パーキングブレーキを使用するように習慣付けてください。

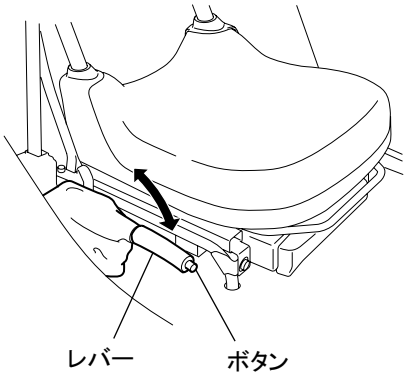
◇パーキングブレーキ

・駐車するときは

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。

・もどすときは

レバーを少し引き上げながら、先端のボタンを押さえてもどします。
パーキングブレーキが解除されると、メーター内のパーキングブレーキ表示灯が消えるので確認してください。



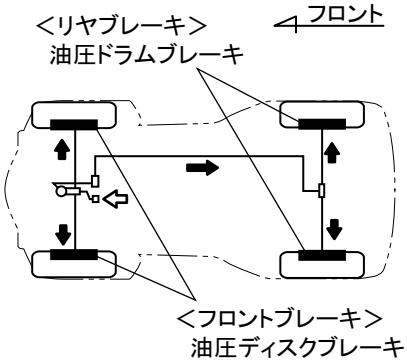
⚠警告

**パーキングブレーキ表示灯が消えていることを確認してから、走行してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが早く消耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなる恐れがあります。
また、モーターやインバーターに負荷が加わり過熱して故障する恐れがあります。**

◇ブレーキ

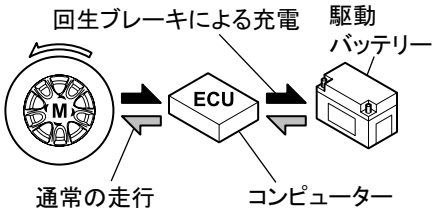
ブレーキは前輪ディスクブレーキ、後輪ドラムブレーキを採用しています。また、補助的減速装置として回生ブレーキ（エネルギー回生機能）があり、アクセルペダルを緩めることによって作動し、ブレーキペダルを踏むことによって更に回生させ減速を補助します。

・ブレーキの仕組み



・回生ブレーキとは

エネルギー回生機能ともいいますが、補助的に作動する減速機能です。
タイヤの回転をモーターが発電機となって電気に変換し充電します。



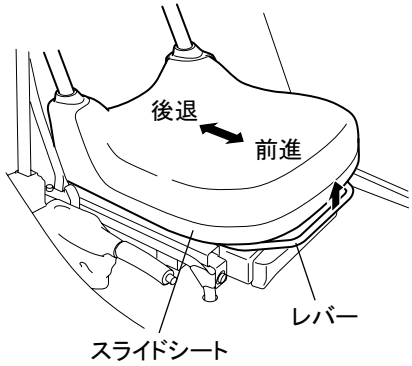
チェックポイント

満充電およびシフトレバーが「N」のときは、回生ブレーキ（エネルギー回生機能）が、働きません。

◇スライドシート

正しい運転姿勢がとれるよう、シートをスライドさせ調節してください。

・レバーを引き上げたままシート位置を前後に調節してください。
・レバーから手を離し、シートを軽く前後に揺すって確実に固定されていることを確認してください。



チェックポイント

次の事項に注意してシート位置を調整します。
・ハンドルが楽に操作できること。
・各ペダルが十分踏み込めること。
・シートベルトが正しく装着できること。
・背もたれから背を離さないこと。

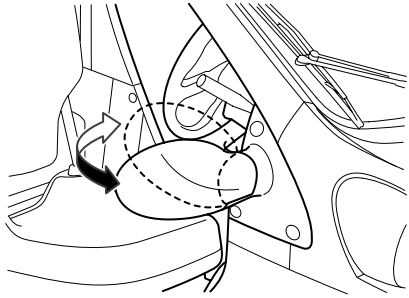
⚠注意

・ シート位置を調整しているときは、シートの下や動かしている部分の近くに手を近づけないでください。
指や手をはさみ、ケガをする恐れがあります。
・ シートの前後調整は、走行する前（停車中）に行ってください。
走行中にシートをスライドさせると、思わぬ事故につながる恐れがあります。

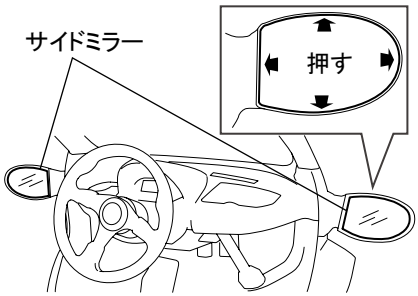
◇サイドミラー

後方の様子がしっかり確認できるように調節してください。

＜格納のしかた＞
サイドミラーは後方に倒して格納することができます。
走行するときは、必ず元に戻してください。



＜調節のしかた＞
サイドミラーのミラー部外周を押して調節してください。



チェックポイント

調節はシートに座って、ミラーに映る後方の視界を確認しながら行ってください。

⚠注意

ミラーの調節は、走行する前（停車中）に行ってください。
走行中に調節すると前方不注意となり危険です。

6．快適装備

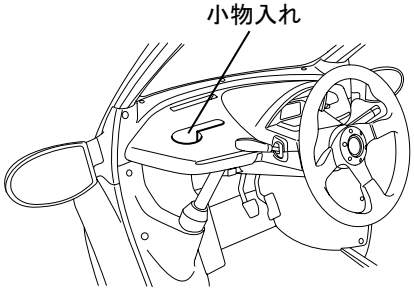
（1）収納装備

⚠注意

- 各収納部に燃料等の入った容器（ライター、カセットボンベ等）、スプレー缶類を収納しないでください。
  万一のときに引火や爆発する恐れがあります。
- プラスチック素材の物、眼鏡等を収納しないでください。
  変形・傷付き・ひび割れを起こす場合があります。

◇小物入れ

インストルメントパネル左側にあります。

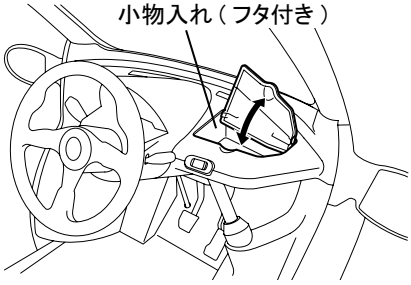


⚠注意

小物入れ内に転がりやすい物や凹面より高さのある物を収納しないでください。
急ブレーキ、急旋回したときなどに収納物が飛び出し思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇小物入れ（フタ付き）

インストルメントパネル右側にあります。

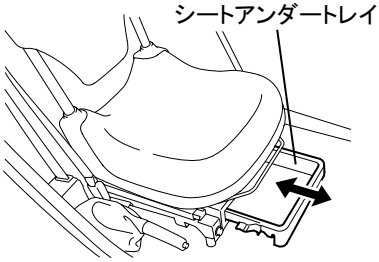


⚠注意

フタは必ず閉めてください。
フタが開いたまま走行すると、ブレーキをかけたときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇シートアンダートレイ

シート下にあります。引き出してお使いください。

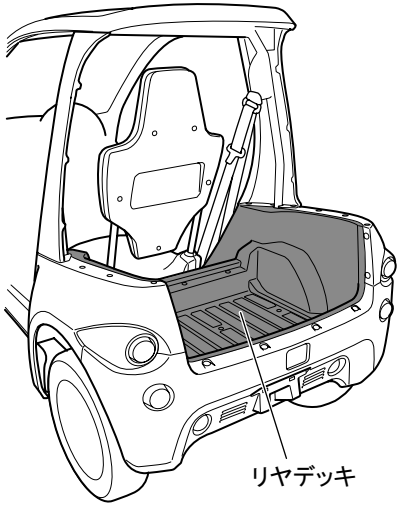


⚠注意

- 引き出したトレイを戻すときは、最後まで確実に押し込んでください。
  トレイが出たままで走行すると、ブレーキをかけたときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- トレイからはみ出るほど物を入れないでください。
  運転のさまたげになり、思わぬ事故につながる恐れがあります。また、シートスライドレバーが操作できなくなったり、収納した物が取り出せなくなる恐れがあります。

◇リヤデッキ
（B･COMベーシック仕様）

荷物等をリヤデッキに収納してください。



チェックポイント

30kg を超える荷物等を収納しないでください。

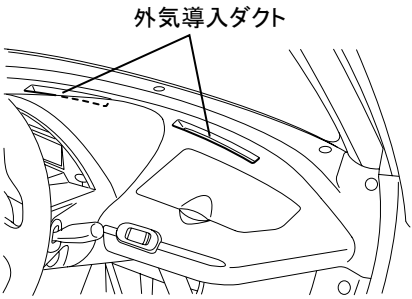
⚠注 意

荷物は動かないように、収納してください。
荷物が動き、破損する恐れがあります。
また、荷物が走行中に飛び出し思わぬ事故につながる恐れがあります。

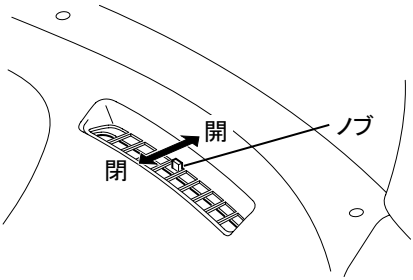
（2）その他の装備

◇外気導入ダクト

インストルメントパネル上面前側に外気導入ダクトがあります。



吹き出し口のノブをスライドすることにより、吹き出し口を開閉することができます。

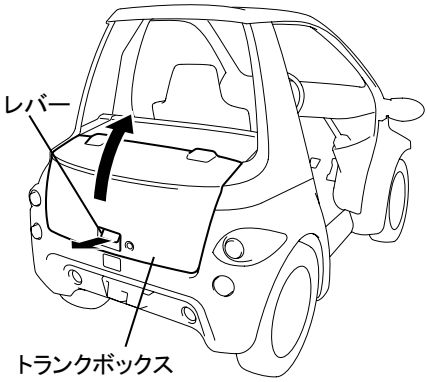


（3）車両仕様別装備

◇トランクボックス（P･COM仕様）

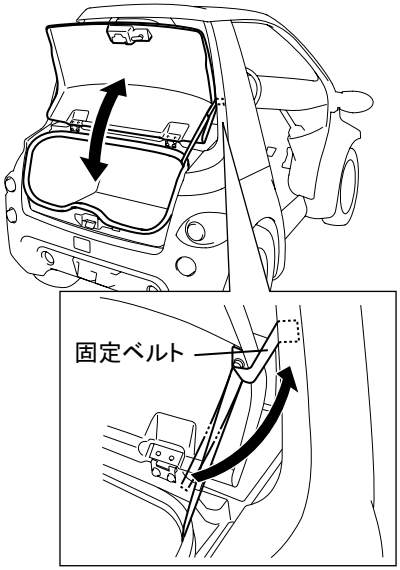
バッグ、手荷物等をトランクボックスに収納してください。

・鍵を開け、レバーを引いて開けます。



・全開にして固定ベルトの面ファスナーで止めてください。

・扉を閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に閉め、鍵を掛けてください。



チェックポイント

- 荷物は動かないように、収納してください。
  トランクボックス内で荷物が動き、破損する恐れがあります。
- 扉の上に物を置かないでください。
  トランクボックスが破損する場合があります。
- 収納は30kgを超えて収納しないでください。
- トランクボックスに荷物を入れたまま洗車（水洗い）をしないでください。
  荷物が濡れる恐れがあります。
- 雨天時に長時間放置すると、トランクボックス内の荷物が湿る恐れがあります。荷物は取り出しておいてください。

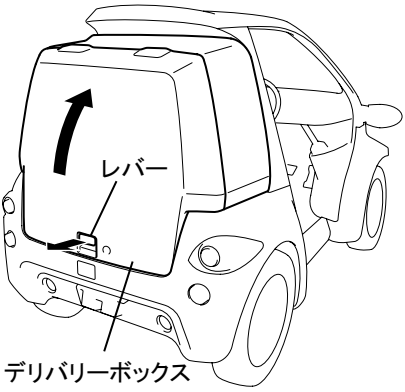
⚠注意

- トランクボックスの扉を開けたまま走行しないでください。
  走行中に荷物が外に飛び出し、重大な事故を招く恐れがあります。扉を閉め、鍵を掛けてから走行してください。
- 扉は必ず全開にして固定ベルトを止めてください。
  風にあおられ、急に閉まったりして思わぬ事故を招く恐れがあります。
- 扉を閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

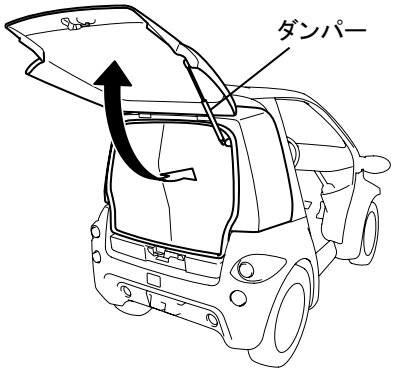
◇デリバリーボックス
（B･COMデリバリーボックス仕様）

荷物等をデリバリーボックスに収納してください。

・鍵を開け、レバーを引いて開けます。



・扉を閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に閉め、鍵を掛けてください。



チェックポイント

- 荷物は動かないように、収納してください。デリバリーボックス内で荷物が動き、破損する恐れがあります。
- 扉の上に物を置かないでください。デリバリーボックスが破損する場合があります。
- 背の高い荷物は、仕切り板を外して収納してください。
- 30kgを超える荷物を収納しないでください。
- デリバリーボックスに荷物を入れたまま洗車（水洗い）をしないでください。荷物が濡れる恐れがあります。
- 雨天時に長時間放置すると、デリバリーボックス内の荷物が湿る恐れがあります。荷物は取り出しておいてください。
- 扉のダンパーに物を掛けたり、寄りかかったり（横向きに力を掛けない）しないでください。

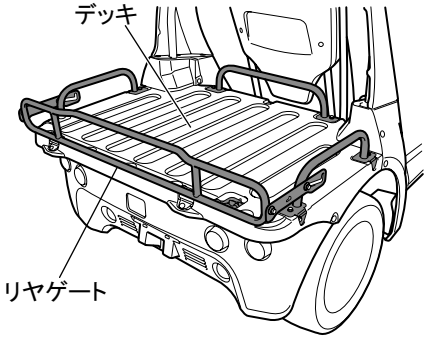
⚠注意

- デリバリーボックスの扉を開けたまま走行しないでください。走行中に荷物が外に飛び出し、重大な事故を招く恐れがあります。扉を閉め、鍵を掛けてから走行してください。
- 扉は必ず全開にしてください。途中で止めると突然、閉まったりすることがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まる恐れがあります。
- 扉を閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

◇デッキ

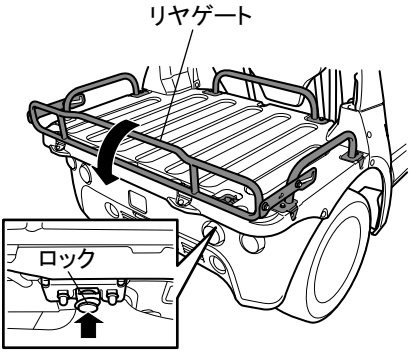
（B･COMデッキ仕様）

荷物等をデッキに収納してください。



荷物の積み下ろしをするときは、リヤゲートを開けて積み下ろしをしてください。

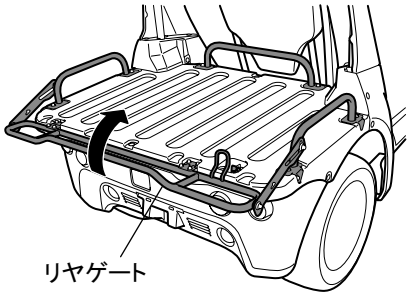
・リヤゲートのロックを解除し、リヤゲートを開きます。



⚠注意

手をケガする恐れがありますので、リヤゲート操作時、誤ってデッキ穴に手を入れないでください。

・リヤゲートを閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に閉めてください。



チェックポイント

30kg を超える荷物等を収納しないでください。

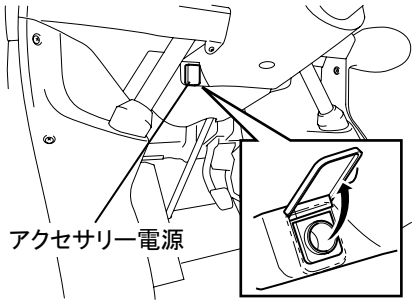
⚠注意

- **荷物は動かないように、収納・固定してください。**
  荷物が動き、破損する恐れがあります。また、荷物が走行中に飛び出し、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- **リヤゲートを開閉するときに、リヤゲートのパイプで手等を挟まないように注意してください。**

（4）オプション部品

◇アクセサリー電源（オプション）

キースイッチが「ON」のときに使用できます。フタを開け、プラグタイプの電気製品の電源としてご使用ください。



チェックポイント

- 必ず、12V10W以下の電気製品をご使用ください。それ以上の容量の電気製品を使用すると、ヒューズが切れる恐れがあります。
- この電源ソケットは、シガーライターを差し込んで使用するようには設計されておりません。

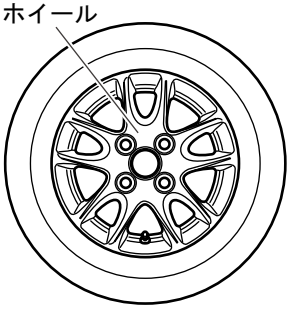
⚠注意

使用しないときは、必ずフタをしてください。ゴミ、金属片、水等の異物が入ると、火災やショートの原因となる恐れがあります。

◇アルミホイール（オプション）

アルミホイールは専用意匠を設定しました。

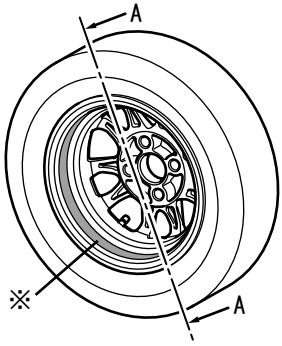
アルミホイール



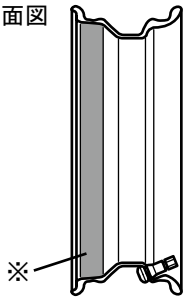
＜バランスウエイトについて＞

※部には、バランスウエイトを貼り付けないでください。

裏面図



A-A 断面図

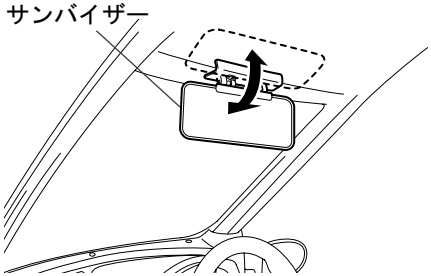


⚠注意

- トヨタ車体指定のアルミホイール以外は使用しないでください。
- 図中※部には、バランスウエイトを貼り付けないでください。

◇サンバイザー（オプション）

前方からの直射日光や対向車のライトのまぶしさを軽減し、視界を確保します。



チェックポイント

- 使用する時は、お好みの位置までおろして、使用しない時は、上にあげてください。

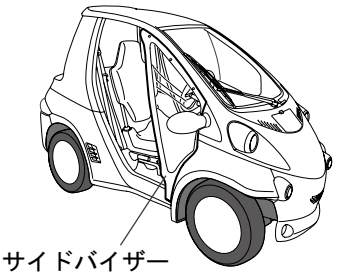
⚠注意

格納時に物をはさまないでください。
走行中に落下しケガや思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇サイドバイザー（オプション）

※キャンバスドアとセットオプションになります。

風の巻き込み、雨の降り込みを軽減します。



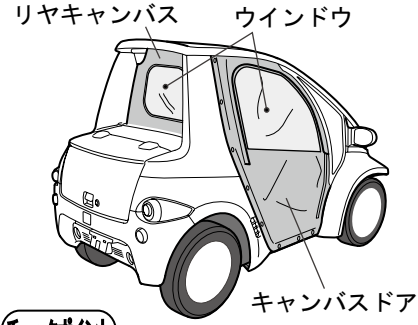
チェックポイント

- キャンバスドアを取り付ける為には、必ず必要です。
- 汚れを取るときは、傷が付かないように中性洗剤を含ませた柔らかい布または、スポンジで拭き取ってください。
- ガソリン、ブレーキフルード、シンナー等の有機溶剤がかかると亀裂が入る恐れがあります。

◇キャンバスドア・リヤキャンバス（オプション）

※サイドバイザーとセットオプションになります。

雨、風の侵入を軽減します。



チェックポイント

- 走行前に、ウインドウの汚れを落として視界を確保してください。
- 雨天時にキャンバスドア・リヤキャンバスを使用すると、ウインドウの内側が曇ることがあります。

お手入れの仕方

汚れは水を含ませた雑巾等で拭き取ってください。それでも落ちない汚れは、中性洗剤を雑巾に含ませ、やさしく拭き取ってください。

チェックポイント

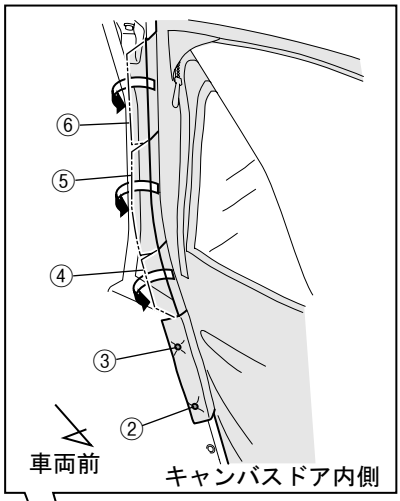
ウインドウは大変傷付きやすいので、特にやさしく拭き取ってください。

⚠注意

乗降時は幌につまづかないよう、足元に注意して乗降ください。
転倒によりケガをする恐れがあります。

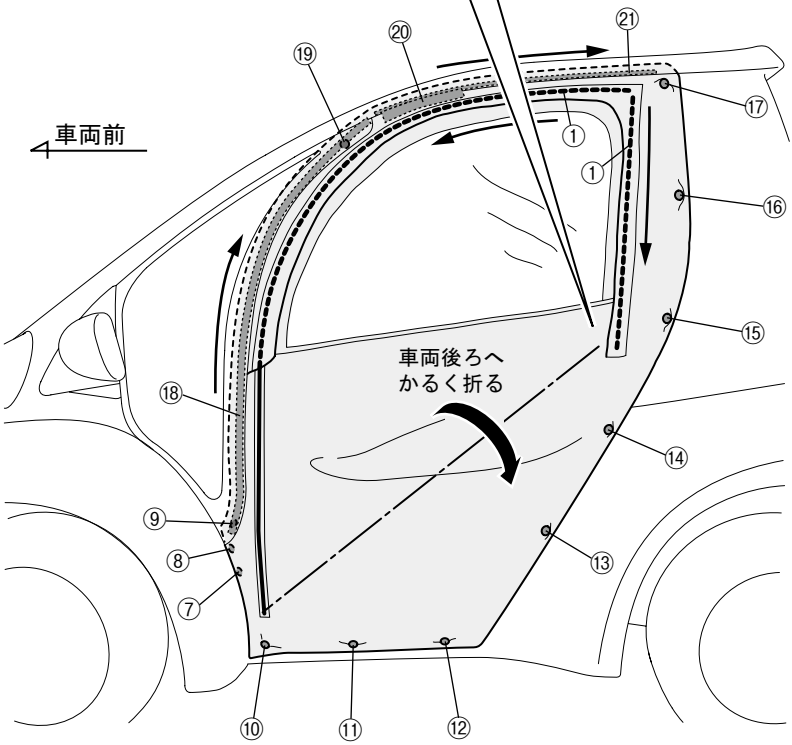
キャンバスドアの取り外し

手順1　ファスナー①（2箇所）を開けます。
手順2　内側のホック②③を外します。
手順3　内側の面ファスナー④～⑥を順番にはがします。
手順4　内側のホック⑦～⑨を順番に外します。
手順5　外側のホック⑩～⑰を順番に外します。
手順6　面ファスナー⑱を下側からはがします。
手順7　内側のホック⑲を外します。
手順8　内側の面ファスナー⑳をはがします。
手順9　面ファスナー㉑を前側からはがし、キャンバスドアを取り外します。



チェックポイント

- **左側ドアの手順を説明していますが、右側ドアの場合も同じ要領で取り外してください。**
- **破れの原因となりますので、取り外しの際は無理に生地を引っ張ったりしないで、ホックを1つずつ外し、取り外してください。**

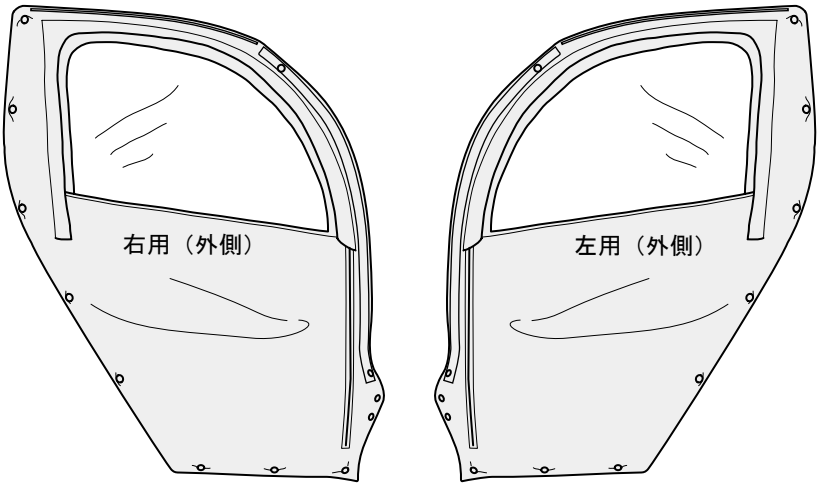


キャンバスドアの取り付け

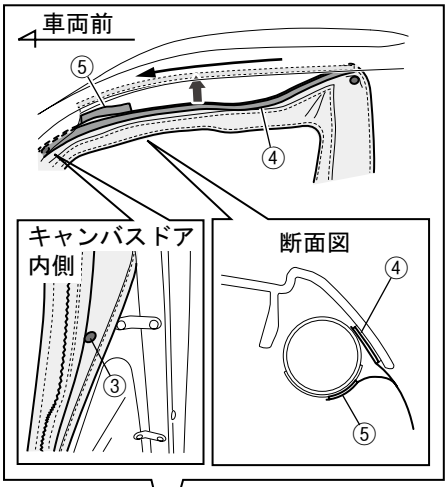
⚠注意

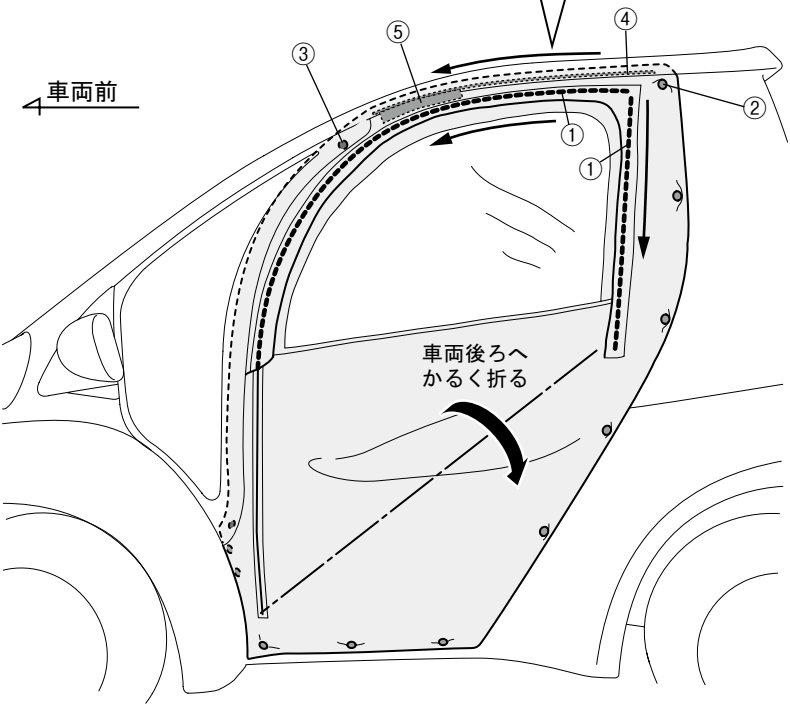
キャンバスドアが正しく装着されていないと、思わぬ事故を招く恐れがあります。
本書に従い、正しい方法でキャンバスドアを取り付けてください。

手順1　キャンバスドアの右用・左用を確認します。
手順2　キャンバスドアの外側・内側（表裏）を確認します。



手順3　ファスナー①（2箇所）を開けます。
手順4　外側からホック②をはめます。
手順5　内側からホック③をはめます。
手順6　面ファスナー④をホック②側から止めていきます。（屋根とパイプの間に差し込むようにして止めます。）
手順7　面ファスナー⑤を内側で止めます。

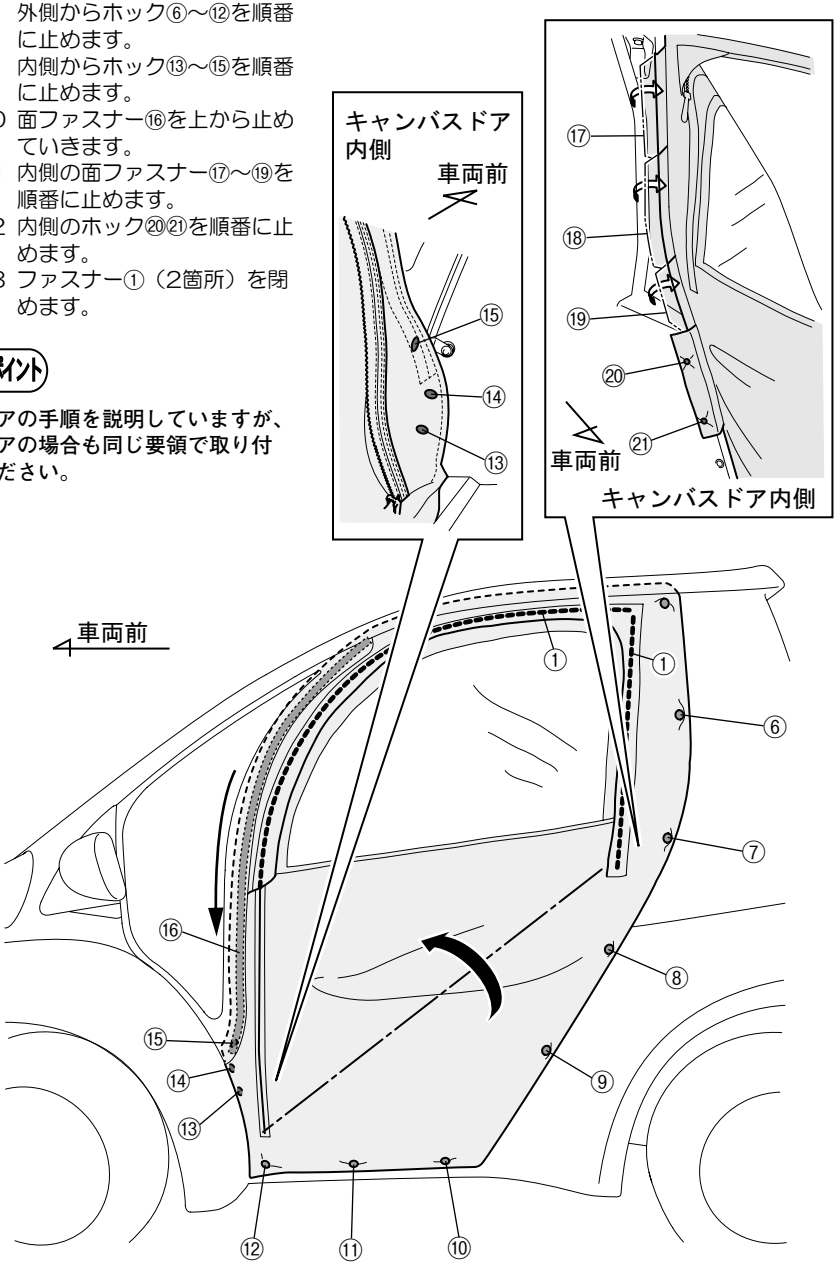




手順8　外側からホック⑥～⑫を順番に止めます。
手順9　内側からホック⑬～⑮を順番に止めます。
手順10 面ファスナー⑯を上から止めていきます。
手順11 内側の面ファスナー⑰～⑲を順番に止めます。
手順12 内側のホック⑳㉑を順番に止めます。
手順13 ファスナー①（2箇所）を閉めます。

チェックポイント

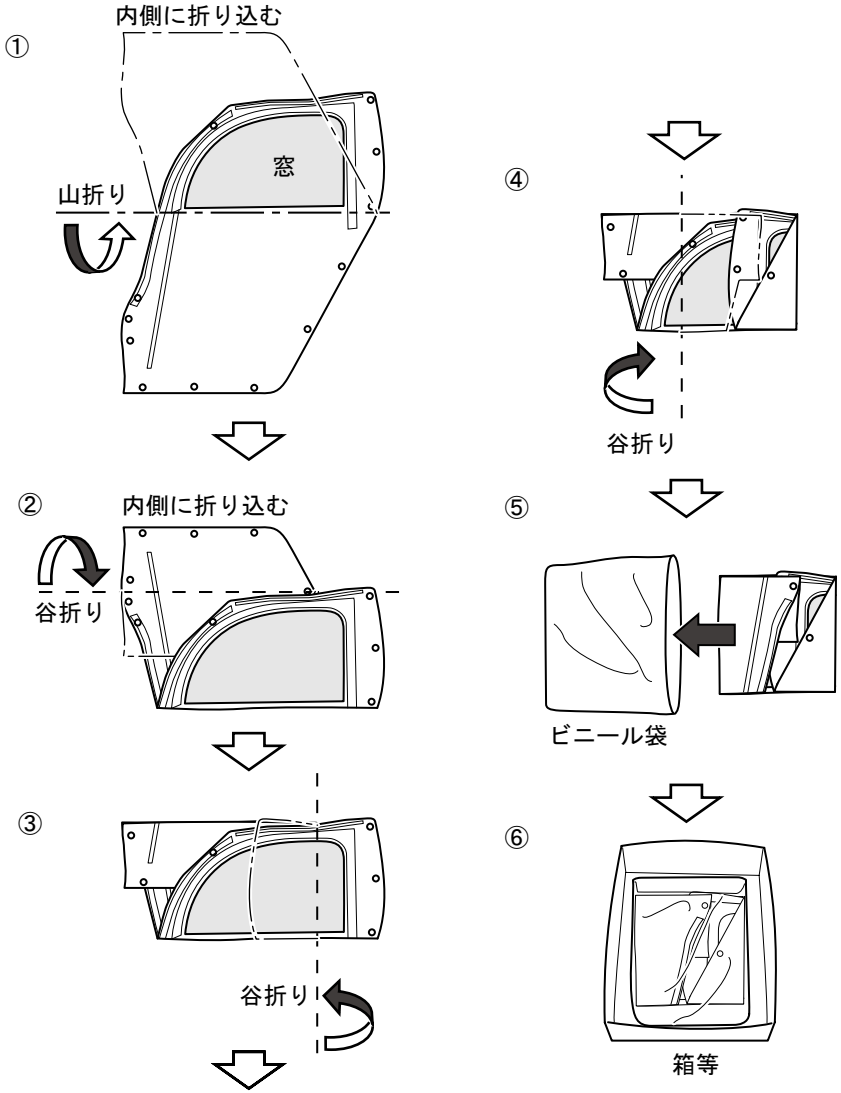
左側ドアの手順を説明していますが、右側ドアの場合も同じ要領で取り付けてください。



キャンバスドアの保管方法

使用後は汚れをきれいに落とし、キャンバスドアに含んだ水分を完全に乾燥させ、ホコリ等が付着しないようにビニール袋等に入れて保管してください。
保管する場合は、下記のように折りたたみ（箱等に）収納してください。

●キャンバスドアの折りたたみ方
（左ドアで説明します。右ドアも同じ要領でたたんでください。）



リヤキャンバスの取り外し

チェックポイント

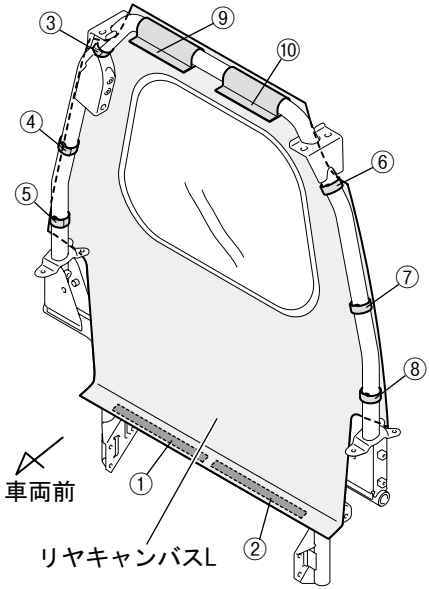
破れの原因となりますので、取り外しの際は無理に生地を引っ張ったりしないで、面ファスナーを１つずつはがして、取り外してください。

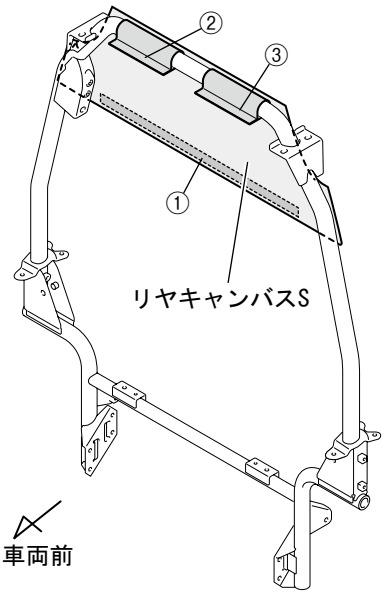
●リヤキャンバスL（B･COM（デリバリーを除く））

手順1　内側の面ファスナー①②をはがします。
手順2　内側のベルト（面ファスナー）③～⑧を順番にはがします。
手順3　内側の面ファスナー⑨⑩をはがし、リヤキャンバスLを取り外します。

●リヤキャンバスS（B･COM（デリバリー）用）

手順1　内側の面ファスナー①をはがします。
手順2　内側の面ファスナー②③をはがし、リヤキャンバスSを取り外します。





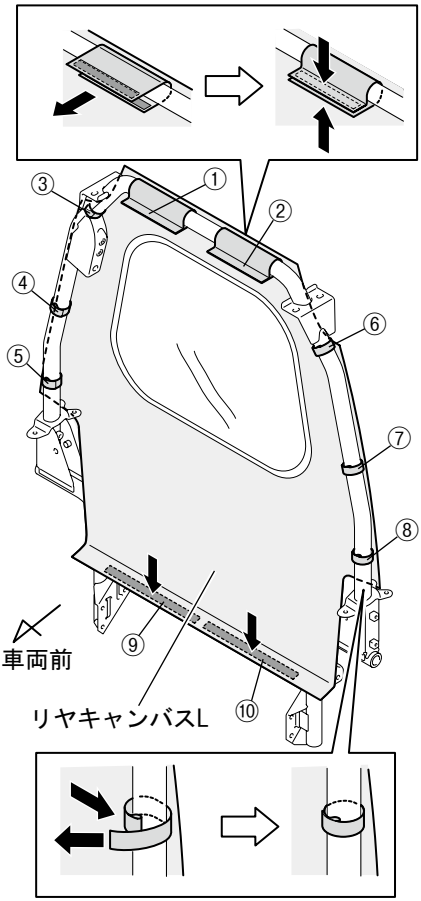
リヤキャンバスの取り付け

⚠注意

リヤキャンバスが正しく装着されていないと、思わぬ事故を招く恐れがあります。
本書に従い、正しい方法でリヤキャンバスを取り付けてください。

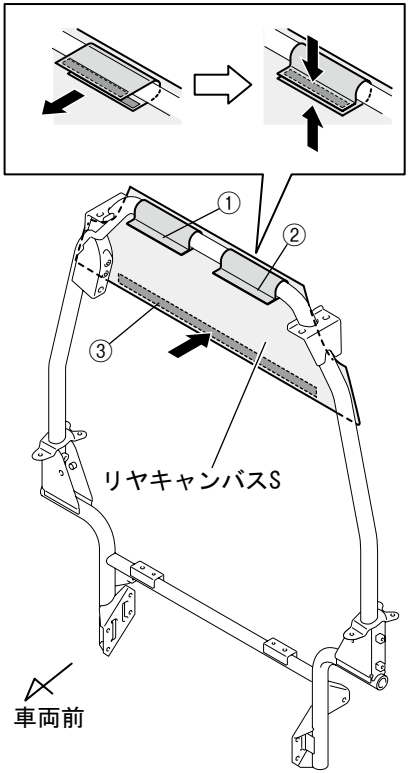
●リヤキャンバスL
（B·COM（デリバリーを除く））

手順1　面ファスナー①②を、車両外側からパイプに挟み込み、車両内側で貼り合わせます。（面ファスナーの角を合わせて貼り合わせます。）
手順2　ベルト（面ファスナー）③～⑧をパイプに巻き付けて、順番で止めます。
手順3　面ファスナー⑨⑩を車両内側で止めます。



●リヤキャンバスS
（B·COM（デリバリー）用）

手順1　面ファスナー①②を、車両外側からパイプに挟み込み、車両内側で貼り合わせます。（面ファスナーの角を合わせて貼り合わせます。）
手順2　面ファスナー③を車両内側で止めます。



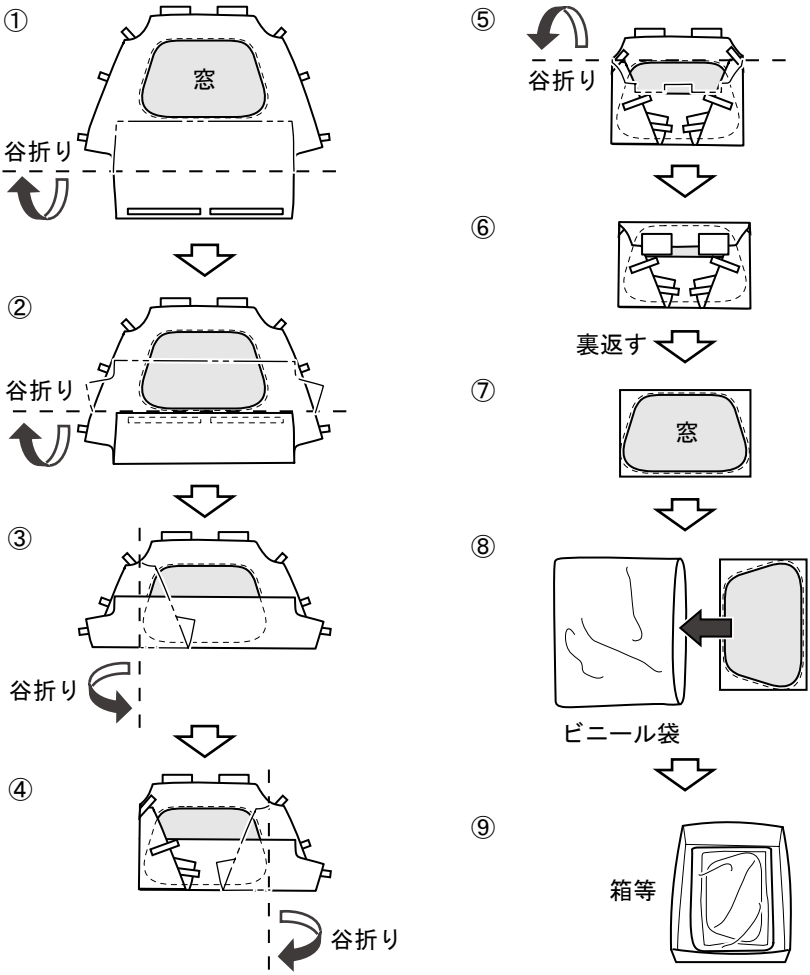
リヤキャンバスの保管方法

使用後は汚れをきれいに落とし、リヤキャンバスに含んだ水分を完全に乾燥させ、ホコリ等が付着しないようにビニール袋等に入れて保管してください。
保管する場合は、下記のように折りたたみ（箱等に）収納してください。

チェックポイント

指示に従って折りたたんでください。
折り目は押さえつけず、かるく折りたたんでください。
窓の部分など傷・折り目が付いたり、破損する恐れがありますので、窓の部分が折り目にかからないように、折りたたんでください。

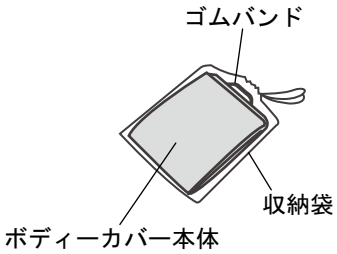
●リヤキャンバスの折りたたみ方



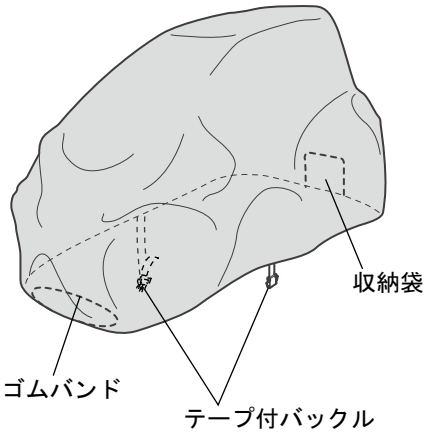
◇ボディーカバー（防炎タイプ）

・コムスに乗らないときの保管用カバーです。
・着火しても燃え広がらない特殊加工を施しています。
・消防法施行規則に基づき評価をおこない、（財）日本防炎協会に認定されています。

＜収納状態＞



＜使用状態＞



チェックポイント

- ボディーカバーは撥水加工を施していますが、完全防水ではありませんので、激しい雨・長時間の雨が降った後は必ず外して、よく乾燥させてください。
- ボディーカバーが汚れた場合は、車から外して、水またはぬるま湯で柔らかい布かスポンジで洗い流してください。

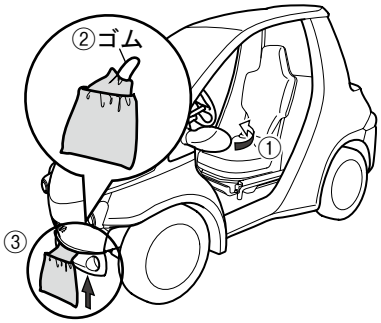
⚠注意

ボデーの塗装を傷付ける恐れがありますので、ボデー及びボディーカバー裏側にほこり・煤煙などが付着しているときは、毛バタキや柔らかい布等で取り除いてから使用してください。
また、ワックスがけを行ったときは、ワックスを拭きあげ、よく乾燥させてから使用してください。

⚠警告

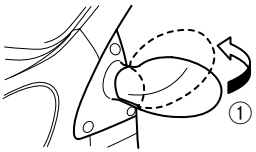
ボディーカバーは、防炎加工を施してありますが、不燃製品ではありません。火気の近くでのご使用または、火気を近づけることは絶対にしないでください。

ボディーカバーの使用方法

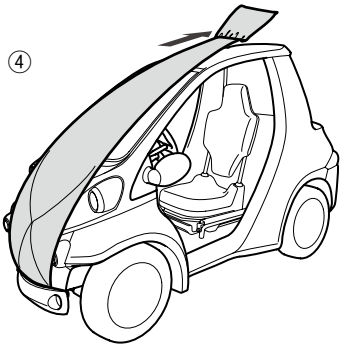


＜取り付け方法＞

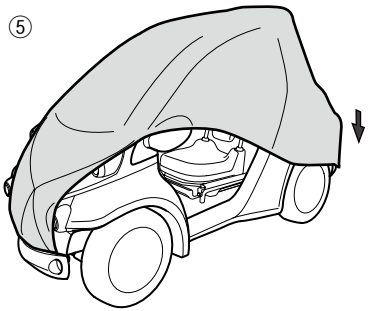
①サイドミラーを
格納します。



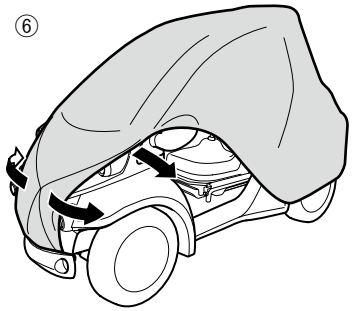
②図のように、ボディーカバーのゴム部を一部引き出してください。
③フェンダー部にゴムを掛けてください。



④袋を車両後方へ引っ張り、カバーを引き出します。

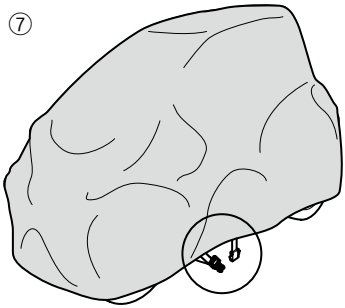


⑤カバーを全て引き出し、リヤ部より被せてください。



⑥フロント部を被せます。

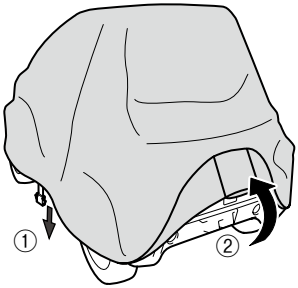
⑦



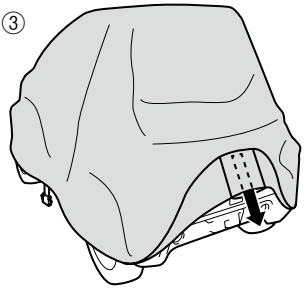
⑦テープ付バックルを車両の下に通し、バックルをロックしてください。

＜取り外し方法＞

①車両下中央部のテープ付バックルを外します。
②ボディーカバー内側の収納袋をめくり上げます。



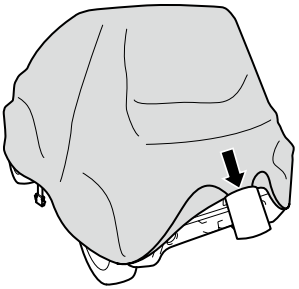
③



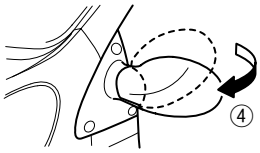
③収納袋を裏返してカバーを押し込んでください。

チェックポイント

ボディーカバーのゴムバンドは、右図のように出しておくと、次回の取り付けに便利です。



④サイドミラーを元に戻してください。



7．運転操作

（1）走行する前に

①シート前後位置を調節してください。
②正しい運転姿勢をとり、シートベルトを締めてください。

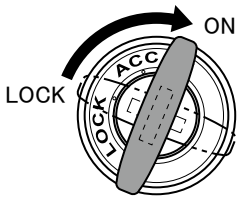
⚠危険

走行中はシートベルトを必ず着用してください。道路交通法に違反することは勿論、走行中に車外へ放り出されたり、ちょっとした追突でケガをする恐れがあります。

③サイドミラーは、後方の様子がしっかり確認できるように調節してください。

◇キースイッチ「ON」

①キーをキースイッチに差し込みます。
②パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
③シフトレバーは「N」の位置にあることを確認します。
④ブレーキペダルを右足で踏んだ状態でキーを回し「ON」にしてください。



チェックポイント

- **キースイッチを「ON」にし、しばらくしてスピードメーターが“0（ゼロ）”を表示すると走行可能となります。**
- **シフトレバーが「N」以外のとき、またアクセルペダルを踏んでいるときは“走行可能状態”に移行しません。**
- **ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを「N」にしたのを確認して、キー操作をしてください。**
  タイヤが回転していると、始動チェックエラーとなります。
- **シフトレバーが「D」または「R」のときは、走行可能状態に移行しません。また、その状態を続けられますと、5分後に節電機能が働き電源が切れます。**
  その時は、電源の切れる前30秒間、警告として、断続ブザーが鳴ります。

◇発進

①アクセル・ブレーキペダルの位置を右足で確認してください。

⚠警告

足元には何も置かないでください。ペダルの操作が思うように行えず非常に危険です。

チェックポイント

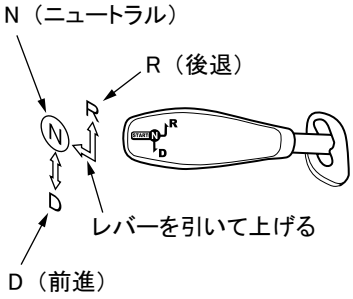
ブレーキランプ、非常点滅灯はキースイッチの「ON・OFF」関係なく点灯可能です。

②ブレーキペダルをしっかり踏み、パーキングブレーキレバーを解除し、メーター内のパーキングブレーキ表示灯が消えるのを確認してください。

⚠注意

長い時間の停車または駐車する場合は、平坦地であってもコムスが動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、常にパーキングブレーキを使用してください。

③進行方向にシフトレバーを設定します。



④ブレーキペダルを緩め、アクセルペダルを
ゆっくり踏み込む事によって発進します。

⚠注意

- **不用意なアクセル操作等は、思わぬ事故につながる恐れがありますのでご注意ください。**
- **コムスは一般乗用車のようなエンジン音を発しません。歩行者等がコムスの接近に気づかないことがありますので、走行するときは周囲に気を配りながら安全運転に心掛けてください。**

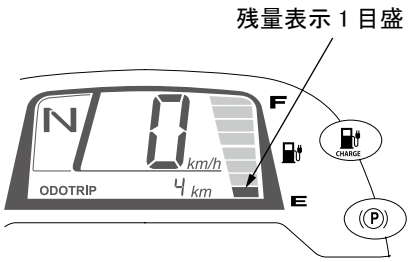
⚠警告

コムスが動いている状態のときにシフトチェンジをしないでください。コムスが動いている状態でシフトレバーを操作すると、モーターが破損したり、また急制動、急発進の挙動につながり大変危険です。

（2）走　行

◇走行中のインジケータランプ

駆動バッテリーの残量表示（スピードメーター内に８目盛表示）は、バッテリーの容量低下に伴って上から一つずつ残量表示が消えていきます。



駆動バッテリー残量表示が４目盛から３目盛、３目盛から２目盛、２目盛から１目盛になったことを断続ブザー（ピッピッピッ）で知らせます。ブザーはそれぞれの段階で３回、５回、５回で鳴り止みます。

チェックポイント

- **残量表示が最後の２目盛になったら、速やかに充電してください。**
  そのまま走り続けて、１目盛表示が点灯し、５～１５km ほど走行すると、点滅に変わります（※路面状況や車両状態、外気温、バッテリー劣化具合等により変化します）。残量表示が点滅すると、ブザー（断続音）が約３０秒鳴りその後、コムスが緊急停止します。
- **ブザーの鳴っている約３０秒の間に安全な場所へ移動してください。**
  走行によっては３０秒未満でエラー停止する場合もあります。
- **不都合な場所で停止してしまった場合、シフトレバーを「N」にし、キースイッチを再び入れ直すことにより、更に約３０秒間走行できます。安全な場所へコムスを移動してください。**
  (連続したキースイッチの入れ直し走行はバッテリーの劣化を早めることになります。)

◇通常の走行

シフトレバーを「D」のまま走行します。
アクセルペダル・ブレーキペダルの操作で、速度調節（加速・減速）します。

◇上り坂走行

⚠注意

長い上り坂を走行すると、モーター類が過熱して警告ランプが点灯することがあります。
安全な場所に移動して、しばらく冷却させてから走行するようにしてください。そのまま走行を続けると緊急停止することがあります。

◇下り坂走行

回生ブレーキ（エネルギー回生機能）を利用してください。必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠注意

走行中はシフトレバーを「N」にしないでください。「N」にすると回生ブレーキが効かない為、思わぬ事故につながる恐れがあります。

（3）停　車

①シフトレバーを「D」のままブレーキペダルをしっかり踏み停車させます。
②信号待ち等の長めの停車時は、シフトレバーを「N」にしてパーキングブレーキを使用してください。
バッテリーの消費を少なくします。

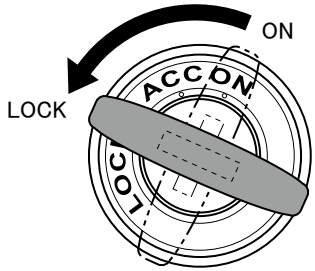
⚠注意

パーキングブレーキ使用中はアクセルペダルを踏み込まないでください。
ブレーキの効きが甘くなったり、モーターに過大な負荷がかかり故障の原因となることがあります。

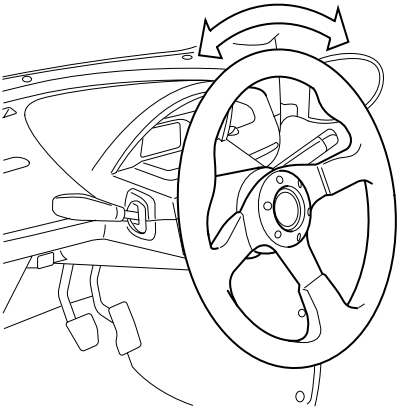
③停車後、再度発進するときはシフトレバーが「D」または「R」の位置にあること、そしてパーキングブレーキの解除を確認してから、ゆっくりアクセルを踏み込んでください。

（4）駐　車

①車両が完全に停止したのを確認してからシフトレバーを「N」にします。
②パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。
③キースイッチを「ＬＯＣＫ」へ回して、キーを抜いてください。



④ハンドルを右か左方向へ回すとハンドルが固定されます。そのとき、“カチッ！”という音がします。ハンドルを左右に回して、ロックしたのを確認してください。



⚠警告

- **やむを得ず、坂道に駐車するときは、市販の輪止めを使用ください。**
- **急な坂道での駐車は避けてください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながる恐れがあります。**

8. 寒冷時の取扱い

チェックポイント

冬期は気温の低下と共にバッテリー能力も低下し、走行距離が短くなります。

◇ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐ為、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈してください。

◇屋根に積もった雪

走行中、屋根に積もった雪が視界の妨げになります。走行前に取り除いてください。

◇ガラス面に付いた雪や霜

視界の妨げになる雪や霜は、プラスチックの板やぬるま湯を用いて、ガラスに傷を付けないように取り除いてください。

⚠注意

熱湯は絶対に掛けないでください。
ガラスが割れる恐れがあります。
大量の水やぬるま湯を一気に掛けないでください。

◇ワイパーの凍結

無理に動かそうとして、スイッチを押し続けると、装置が破損したり、ヒューズ切れを起こす原因となります。

◇滑りやすい路面の走行

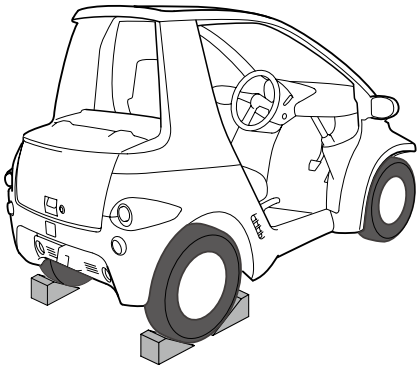
- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の“急”の付く動作は避けてください。
- 橋の上や、日陰など凍結しやすい場所では減速してください。
- 積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン（P.５４参照）を装着してください。

◇駐車するときは

- 寒冷時は、パーキングブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して解除できなくなる恐れがあります。
  コムスを平らな場所に止め、市販の輪止め等を利用してください。

⚠注意

坂道での駐車は避けて、必ず輪止めを使用してください。
無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- 降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付く恐れがあります。
  ワイパーアームを立てて駐車してください。

⚠注意

- **ワイパーアームを戻す際は、ゆっくりと戻してください。**
- **ワイパーを倒す（戻す）際にメインアームとサブアームの間に手を挟まないよう注意ください。**

◇タイヤチェーン

・タイヤチェーンは後２輪に取り付けてください。
前輪に付けると、車体に接触し走行機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。
・タイヤチェーンの取付け、および取扱い方法はタイヤチェーン付属の取扱書に従ってください。
・タイヤチェーンは、以下を推奨します。

タイヤサイズ	推奨チェーン
145/70 R12	エフ・イー・シー・チェーン 品番：YQ ２０１

⚠注 意

・ タイヤチェーンはコムスのタイヤサイズに合ったものを使用してください。サイズが合っていないタイヤチェーンを使用すると、事故や故障の原因になることがあります。
・ タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り超えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などはしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながる恐れがあります。

9．メンテナンス

（1）日常点検

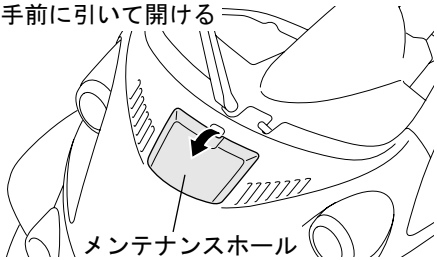
⚠注意

日常点検は、お車を使用する人が１日１回運転する前に実施する点検です。下記注意事項を読んで頂き、安全に十分注意して行ってください。

- **点検は平坦な所で行ってください。**
- **走行して点検する項目がありますが、そのときは安全な場所で周囲の交通事情に十分注意をして行ってください。**
- **点検整備をするときは、火気厳禁です。**
- **点検箇所で異常が見つかった場合は、コムス販売店へご相談ください。**

◇メンテナンスホールについて

・ウォッシャー液およびブレーキフルード/リザーバタンクの点検は、メンテナンスホールを開けて行います。



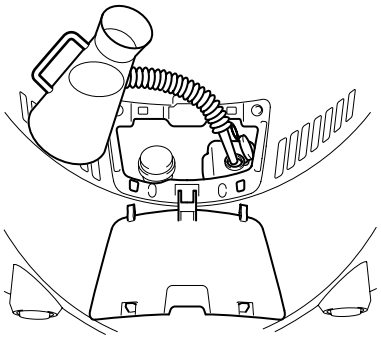
⚠注意

- **メンテナンスホールを開ける際は、手を痛めないよう注意してください。**
- **メンテナンスホールを閉める際は、「カチッ」と音がするまで、確実に閉めてください。**

◇ウォッシャー液の点検

・ウォッシャー液の点検は、メンテナンスホールを開けて行います。

・ウォッシャー液が不足している場合は、メンテナンスホール内のウォッシャータンクのキャップを外し、容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。補給時は、周囲にこぼさないよう注意して補給してください。



チェックポイント

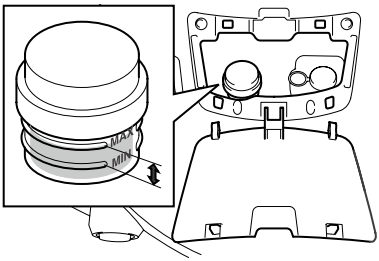
ウォッシャー液はカー用品販売店、ガソリンスタンド、コムス販売店等でお買い求めください。他のせっけん水等を入れ、使用されますとボデー面にしみが残る恐れがあります。

⚠注意

- **ウォッシャータンクのフタは、必ず閉まっている事を確認してください。**
- **ウォッシャータンクへ寄りかからないでください。**
- **ウォッシャータンクのフタは無理に引っ張らないでください。**
- **ボデーや周辺部品に掛かった場合は、ウエス等で拭き取ってください。**

◇ブレーキフルード／リザーバタンクの点検

・ブレーキフルード／リザーバタンクの点検は、メンテナンスホールを開けて行います。
・メンテナンスホール内のリザーバタンク周辺から液漏れがないか点検してください。
・リザーバタンクの液面がＭＩＮ線とＭＡＸ線の間にあるかを確認し、ＭＩＮ線より下にある場合はＭＡＸ線まで指定のブレーキフルードDOT３（トヨタキャッスルブレーキフルードDOT３）を入れてください。
他のブレーキフルードとの併用はやめてください。



＊ ブレーキフルードがボデー等に付着すると塗装が剥がれる事があります。
＊ ブレーキフルードは２年に１度、定期点検整備のときに交換してください。

⚠警告

・ 粗悪品や他種の油と混ぜることをしないでください。
ブレーキが作動しない恐れがあり非常に危険です。
・ ブレーキフルードの減りが著しいときは、漏れが考えられます。ブレーキが作動しない恐れがあり非常に危険です。

⚠注意

・ リザーバタンクのフタは、必ず閉まっている事を確認してください。
・リザーバタンクへ寄りかからないでください。
・リザーバタンクのフタは無理に引っぱらないでください。

◇ワイパーの点検

・ワイパーを作動させ正常に機能しているかを確認します。
・ワイパーブレードの劣化により拭き残しがある場合は交換してください。
交換はコムス販売店へご相談ください。

◇タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧は必ず点検してください。
空気圧は、運転席の右側足元の位置に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または次項のメンテナンスデータで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

◇タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤ接地面の全周や両側面に著しい亀裂や損傷がないか、また異物の噛み込みがないかを点検してください。

◇タイヤ溝の深さの点検

タイヤの接地面のウェアインジケータ（摩耗限度表示）等により、溝の深さを点検してください。

◇タイヤの偏摩耗の点検

タイヤ接地面に異常な摩耗がないかを点検してください。

◇警音器（ホーン）の点検

キースイッチ「ＯＮ」にして、警音器（ホーン）がなるか、ハンドルのホーンスイッチを押して点検してください。

◇ブレーキペダルの点検

ブレーキペダルを踏み込んだとき、異常に軽くないか、引っかかる感触がないかを確認してください。更に、効き具合が十分であるかを乾燥した路面を低速走行して点検してください。

◇パーキングブレーキの点検

パーキングブレーキレバーをゆっくり引いてブレーキが完全に効くまでのノッチ数（音の数）を調べてください。
（基準値：４～６ノッチ）

◇灯火装置、方向指示器の点検

・キースイッチ「ON」にして、前照灯（ヘッドライト）、尾灯（テールランプ）等の灯火装置や方向指示器の点滅状態が良好か、またレンズに汚れや損傷がないか点検してください。
・電球（バルブ）が点灯、点滅しない場合は、電球（バルブ）を交換してください。（P.５９参照）

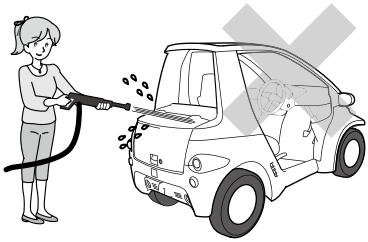
◇モーターの点検

アクセルペダルを踏んで、スピードの加減速がアクセル操作どおりにスムーズか、モーターから異音がしないか点検してください。

◇充電コード差し込み口、充電コードの点検

充電コード差し込み口（車両側）および充電コードに、汚れや腐食、損傷がないか点検してください。

（2）お手入れ



⚠注 意

- **高圧洗車（洗車機）、ホース洗車はしないでください。**
  車内のスイッチ類、フロア下の電気部品に水がかかると故障する恐れがあります。
- **ベンジン・シンナー等の有機溶剤や、酸・アルカリ性溶剤を使わないでください。変色やシミの原因になります。**

◇ボデーのお手入れ

ボデーの洗車は、濡れた雑巾等でお手入れしてください。

⚠注 意

- **ブレーキの制動部分に水をかけないでください。**
  水がかかるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。
- **下廻りのお手入れでは、手にケガをしないようにご注意ください。**

チェックポイント

- **洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意しながら、低速でブレーキの効き具合を確認してください。**
- **カラー塗装は固形ワックスも使用できます。**

◇内装のお手入れ

中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽く拭き取ります。さらに水に浸した布を固くしぼって拭き取ります。
汚れがひどいときはコムス販売店にご相談ください。

⚠注 意

車内のスイッチ類、フロア下の電気部品に水がかかると故障する恐れがあります。

（3）電球（バルブ）の交換

ここでは、主な電球（バルブ）の交換方法を記載します。記載されていない電球の交換はコムス販売店にご相談ください。

チェックポイント

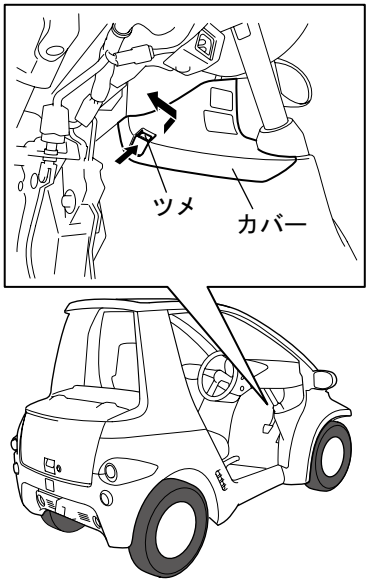
- 必ず、同じW数の電球をご使用ください。（P.６５参照）
- 左右同じ電球が付いている場合は、同時に交換することをお勧めします。
- 電球および電球固定具の取り付けは、確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入り等による故障およびレンズ内面の曇りにつながる恐れがあります。

⚠注意

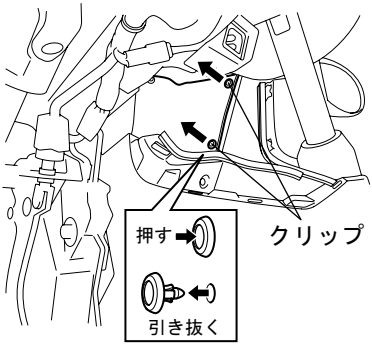
- ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高い為、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
- ハロゲン電球のガラス面を素手で触れないでください。油脂等が付着すると早期にバルブ切れをおこします。触れるときは、必ずきれいな手袋を着用してください。
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。
  火傷をする恐れがあります。

◇前照灯の電球交換

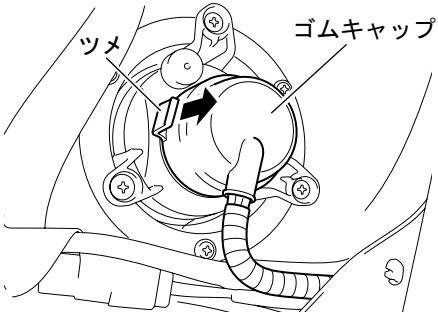
①ツメを押しながら引き上げロックを外し、カバーを取り外します。



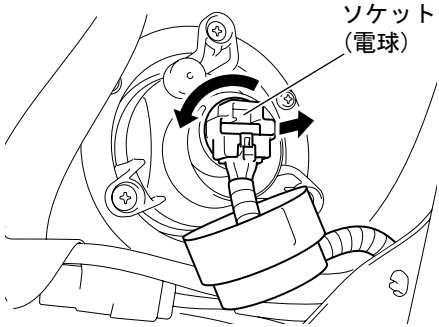
②クリップ中央を押してロックを外し、クリップを引き抜きます。



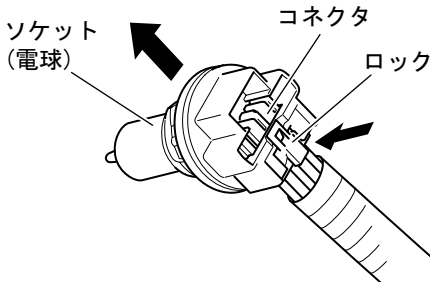
③ツメを図中矢印に引っ張って、ゴムキャップを外します。



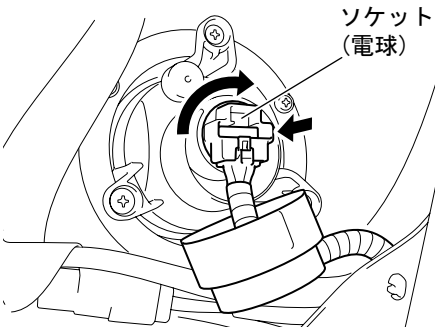
④ソケット（電球）を左に回し引き抜きます。



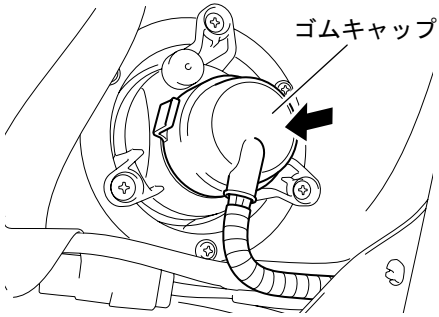
⑤コネクターのロックを外し、ソケット（電球）を引き抜きます。



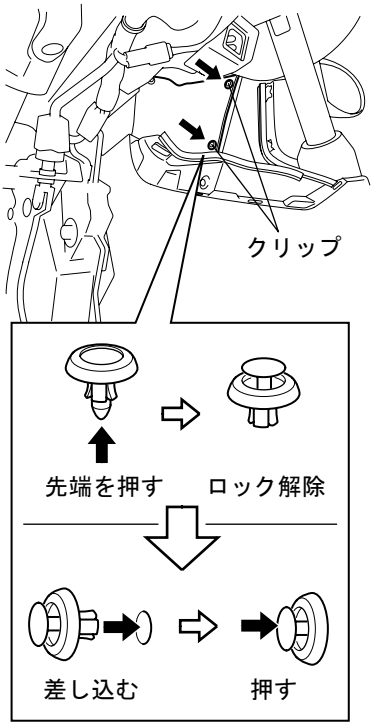
⑥新しいソケット（電球）に交換し、取り外しと逆の手順でソケット（電球）を前照灯に取り付けます。



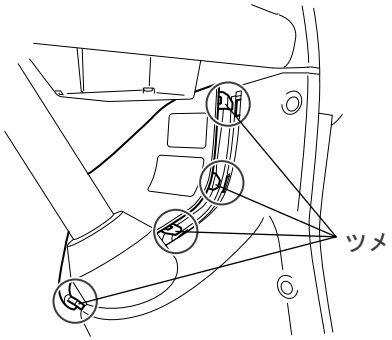
⑦ゴムキャップを取り付けます。



⑧クリップの先端を押してロック解除の状態にし、カバーにクリップを挿入して固定します。
クリップ中央のロックを押し込み固定してください。

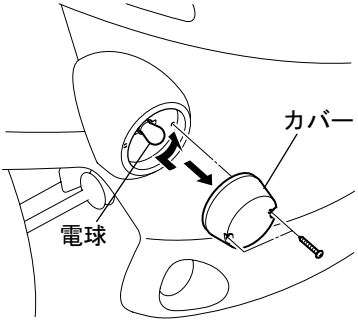


⑨カバーのツメ4ヵ所を合わせ、取り付けます。

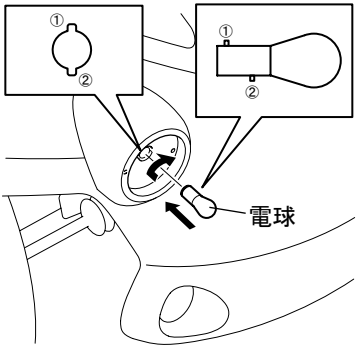


◇方向指示灯／非常点滅灯／車幅灯（フロント）の電球交換

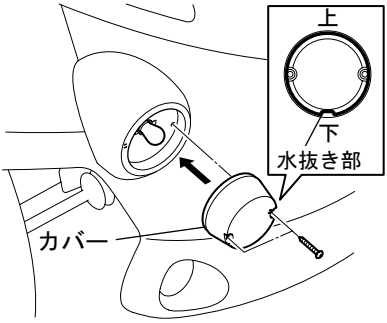
①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



③新しい電球のピンの位置を図のように合わせ、押し込みながら、右に回して固定します。

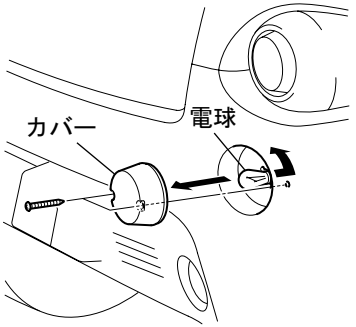


④カバーの水抜き部が下になるようにネジ止めます。

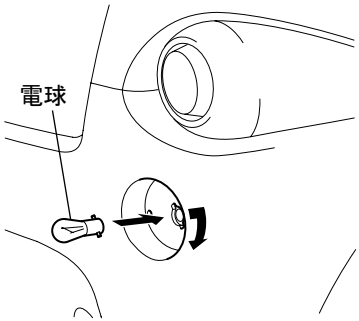


◇方向指示灯／非常点滅灯（リヤ）の電球交換

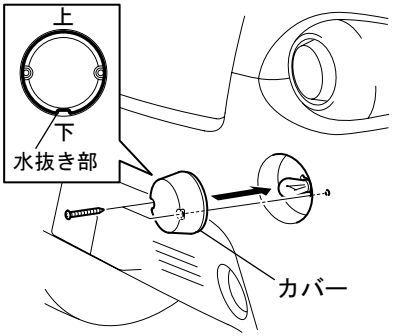
①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



③新しい電球のピンの位置を合わせ、押し込みながら右に回して固定します。

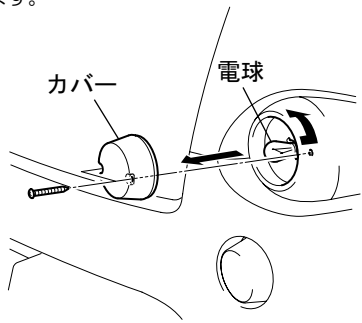


④カバーの水抜き部が下になるようにネジ止めます。

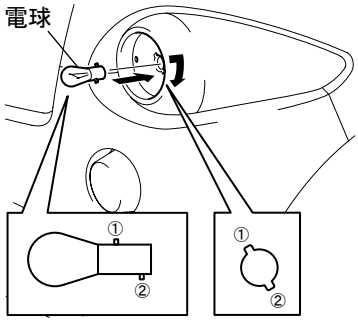


◇ブレーキランプ／テールランプの電球交換

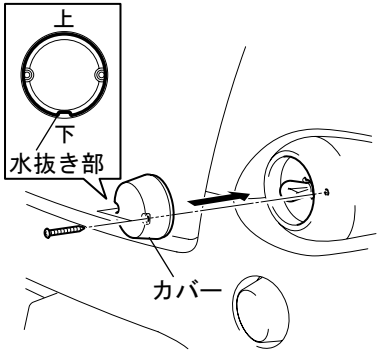
①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



③新しい電球のピンの位置を図のように合わせ、押し込みながら右に回して固定します。

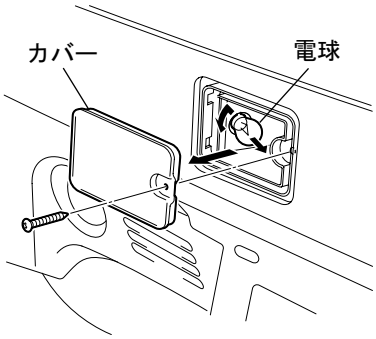


④カバーの水抜き部が下になるようにネジ止めます。

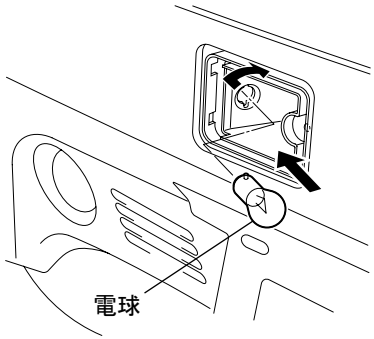


◇後退灯の電球交換

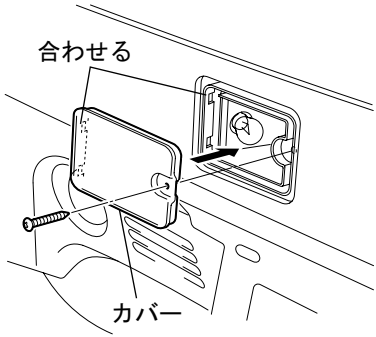
①ネジを1本外し、カバーを取り外します。
②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



③新しい電球のピンの位置を合わせ、押し込みながら右に回して固定します。

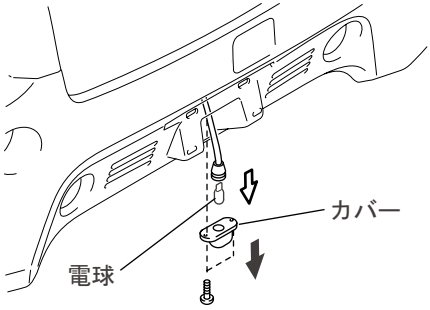


④先にツメ2ヵ所を合わせ、カバーをネジ止めます。

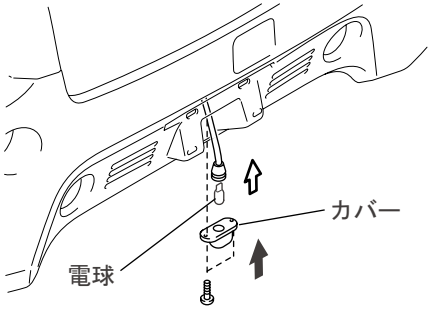


◇番号灯の電球交換

①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
②電球を引き抜きます。



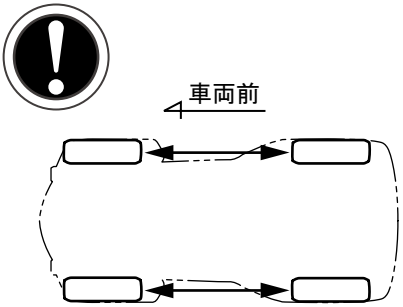
③新しい電球を、押し込み固定します。
④カバーをネジ止めします。



（4）その他の点検整備

◇タイヤの位置交換

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばす為に
２,０００ｋｍ毎に位置交換します。



◇ヒューズの点検・交換

ランプが点灯しないときや、コムスが動かないときはヒューズ切れが考えられます。
コムス販売店までご連絡ください。

⚠危険

電気系統にはむやみに工具や素手で触れないようにしてください。
感電して大ケガ、または生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。また、走行不良を起こしたり、故障の原因にもなります。

◇定期点検整備

- 12ヵ月および24ヵ月毎の、コムス販売店で行う点検整備があります。定期的に交換が必要な部品がありますので、コムス販売店の指示に従ってください。
- 日頃コムスを乗っているときに感じられた不具合等がありましたらコムス販売店にご相談ください。

＊ メンテナンスノート（点検整備記録簿）をよくお読みになり、その指示に従ってください。

（5）メンテナンスデータ

◇整備情報

ブレーキペダルの遊び		０～５mm	
ブレーキペダルと床との隙間		84mm 以上	
パーキングブレーキの引きしろ		４～６ノッチ・200N	
タイヤ空気圧	前輪	160ｋＰａ（1.6kgf/cm²）	
	後輪	160ｋＰａ（1.6kgf/cm²）	
ブレーキフルード		DOT3(トヨタキャッスルブレーキフルードDOT3)	
ウォッシャータンク容量		1.4 リットル	
電球	前照灯(ハイビーム／ロービーム)	35W／ 30W×2	種別：HS5 35W/30W(12V) タイプ：T15(ダブル)
	フロント方向指示灯／車幅灯	21W（兼非常点滅灯)／ 5W	種別：P21/5W(12V) タイプ：S25(ダブル)
	リヤ方向指示灯	21W（兼非常点滅灯）	種別：P21W(12V) タイプ：S25
	ブレーキランプ／テールランプ	21W／ 5W	種別：P21/5W(12V) タイプ：S25(ダブル)
	番号灯	5W	種別：W5W(12V) タイプ：T10
	後退灯	21W	種別：P21W(12V) タイプ：S25

○コムスの保証について

トヨタ車体では、お買い上げ頂いた製品について、「トヨタ車体保証制度」に基づいた品質の保証を致しております。別冊のメンテナンスノートに、その保証内容が詳しく記載してありますのでご参照ください。

○メンテナンスノート（点検整備記録簿）

メンテナンスノートは、定期点検整備の実施内容を記録するもので、運転免許証、届出済証、保険証書などと一緒に常に携行していなければなりません。汚したり、濡らしたり、紛失しないように大切に保管しておいてください。

○点検修理の場合は

点検整備の中には技術的知識を必要とする構造・装置(モーター、コンピューター等)があります。お客様自身で作業および、良否の判定が出来ない場合はコムス販売店へご相談ください。

◇諸元表

仕　様		P・COM	B・COM		
			デリバリー	デッキ	ベーシック
車両型式	車名及び型式	ZAD-TAK30-PD	ZAD-TAK30-DS	ZAD-TAK30-KS	ZAD-TAK30-BS
	原動機の形式	TA-01			
重量	車両総重量(kg)	465	475	465	455
	車両重量(kg)	410	420	410	400
性能	種別又は範囲	※1　第一種原動機付自転車（四輪）			
	燃料の種類	電気			
	1充電走行距離（市街地走行）	※2　50km 程度			
	最高速度(km/h)	60			
	最小回転半径(m)	3.2			
	最大積載量（kg）	30			
	乗車定員	1名			
主要寸法	全　長(mm)	2,395		2,475	2,395
	全　幅(mm)	1,095		1,105	1,095
	全　高(mm)	1,500	1,495	1,500	1,505
	軸　距(mm)	1,530			
	輪　距(mm)	前軸：930　　後軸：920			
	タイヤ(前輪･後輪)	※3､※4　145／70R12　69Q（S）			
駆動バッテリー		密閉型鉛蓄電池 12V×52Ah×6個			
補機バッテリー		密閉型鉛蓄電池 12V×17Ah×1個			
充電装置	制御方式	定電流・定電圧充電			
	充電時間	※5　6時間程度			
	交流入力電源	100V　9.5A			
制動方式		前輪ディスクブレーキ（油圧式）、後輪ドラムブレーキ（油圧式）			
原動機	駆動方式	1モータデフ付き後輪駆動			
	定格出力(kW)	0.59			
	種類	永久磁石型同期電動機			
	制御方式	ベクトル制御定周波数可変パルス幅式			
	最高出力(kW)	5.0			
坂道発進可能な最大角度		※6　11°（19%勾配）			

※1　道路交通法上は、普通自動車なので普通免許が必要です。
※2　1充電当たりの走行距離は気温、走行状態、バッテリーの劣化具合によって変化します。
※3　オプションアルミホイールは、指定以外の場所にバランスウェイトを貼付けないでください。
※4　指定以外のホイールは使用しないでください。
※5　定められた試験条件の下でバッテリー残量計が消えた状態から充電表示灯が緑色点滅に至るまでの所要時間です。実際の充電時には、気象・整備・バッテリーの劣化・充電などの条件に応じて異なります。
※6　バッテリー残量、装着オプション、路面状況、荷物の重さや乗員の体重により変動します。

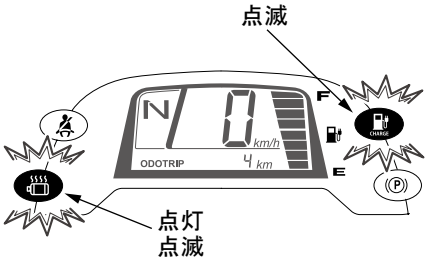
１０. 万一の場合

（1）警告機能

コムスは、故障（不具合）を最小限に抑える為、異常を感知すると表示灯または警告灯の点滅・点灯や、ブザーが鳴ったり、緊急停止させたりして運転者へ知らせる警告機能が組み込まれています。

◇表示灯または警告灯で知らせる

メーター内部にある表示灯または警告灯が、異常を感知したときに点滅・点灯します。



⚠注 意

表示灯または警告灯の点滅・点灯時は、無理に走行を続けないでください。大きな故障にしない為に、早めの対応をしていただく異常表示です。

◇ブザー音で知らせる

ブザーが断続音や連続音で鳴り、運転者にコムスが今どのような状態かを知らせます。
制御を遮断する等の注意を促す為の警告です。

◇緊急停止処理

異常を感知すると、スピードメーター内の表示が全消灯し警告音（ブザー連続音）が鳴ると同時に、車両への供給電源を停止させます。

◇警告内容とその対処方法

＜充電時＞

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	消灯	充電中にキースイッチ「ON」にした。	充電コードを取り外した状態でキースイッチ「ON」にする。
断続音	点滅(赤)	充電システム異常	充電コードを差し直す。

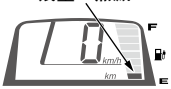
＜停車時＞

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	点灯	キースイッチ「ON」で長時間放置した場合に鳴ります。	キースイッチを入れ直す。

＜始動時＞

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	点灯	アクセルペダルを踏んだ状態でキースイッチ「ON」にした。	アクセルペダルを踏まない状態でキースイッチ「ON」にする。
連続音	点灯	車両が動いている。	車両を完全に停止させてキースイッチを入れ直す。

＜走行時＞

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	消灯	速度超過	60km/h 以下へ速度を落とす。
断続音	残量１点滅 	バッテリー残量が なくなりました。	充電できるところへ移動する。
なし	点滅(赤)	モーター温度上昇	道路状況に応じて速度を落とすか、 停止させ自然冷却させる。
断続音	点滅(赤)	モーター温度上昇	速度を落とすか、停車させて５分ほど 自然冷却させる。
連続音	点灯	モーター温度上昇	キースイッチを入れ直す。 安全な場所へ移動させ５分ほど自然冷 却させる。
断続音	消灯	補機バッテリー電圧低下 ブザー連続音と共に車両 が停止します。 システム異常	緑点灯まで充電する。
連続音	消灯	システム異常	キースイッチを入れ直す。
なし ↓ 連続音	点滅(赤)	補機バッテリー電圧低下 このまま走行を続けて、 さらに電圧が低下すると ブザー連続音と共に 車両が停止します。	充電できるところへ移動する。 緑点灯まで充電する。

⚠注意

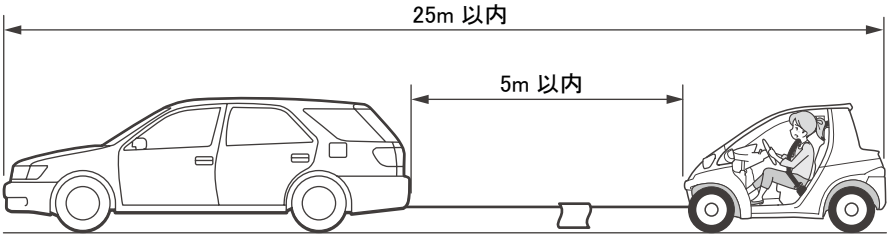
異常発生時、モーターは停止しますが車両は惰性で走行します。ブレーキを踏みながら、他の通行車両の妨げにならない安全な場所を探して、車両を止めてください。

チェックポイント

- **緊急停止した場合、再度キーを差し直して走行可能になる事があります。同じ症状が繰り返された場合、コムス販売店へ連絡して、点検を受けてください。**
- **モーター過熱警告が点灯しているときは、急な上り坂などでの発進時に車両が下がる場合がありますので、パーキングブレーキを併用してください。**

（2）けん引

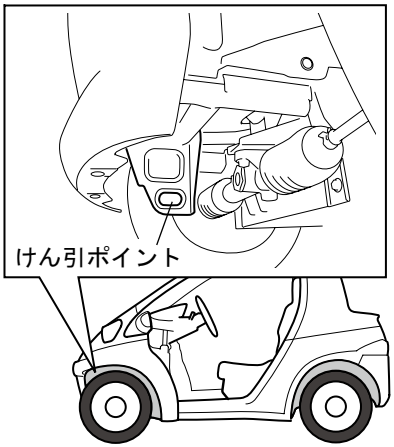
けん引はできるかぎりコムス販売店へ依頼してください。



⚠注意

長い下り坂では、レッカー車で移動してください。
ブレーキが過熱して効かなくなり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

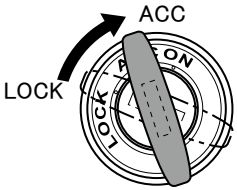
①ボデーに傷を付けないよう（接触部分には布等を巻く）に、必ずけん引ポイントにソフトロープを掛けてけん引してください。けん引ロープには、３０センチ平方（３０cm×３０cm）以上の白い布をロープ中央に必ず掛けてください。



⚠注意

指定以外の位置でけん引しないでください。コムスが破損したり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

②キースイッチは必ず「ＡＣＣ」の位置にしてください。



チェックポイント

キースイッチが「ＯＮ」のままけん引すると、バッテリーに負荷がかかり破損することがあります。

⚠警告

キースイッチを「LOCK」して、キーを抜くとハンドルがロック状態となる為、ハンドル操作ができなくなり非常に危険です。

③シフトレバーを「Ｎ」の位置にし、パーキングブレーキを解除します。
④けん引ロープをたるませないようにして、前の車のブレーキランプに注意しながらブレーキ操作、ハンドル操作をしてください。

⚠警告

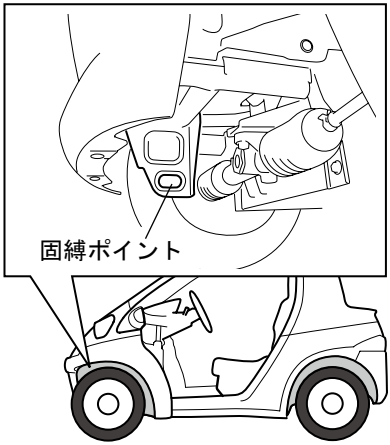
安全の為、けん引速度は３０km/h 以下で走行してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。

（3）固縛ポイント

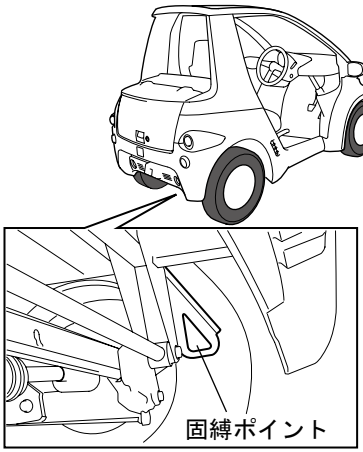
コムスを固縛（固定）するときは、下記の固縛ポイントで固定してください。

◇フロント側固縛ポイント

けん引ポイントを固縛ポイントとして固定してください。



◇リヤ側固縛ポイント

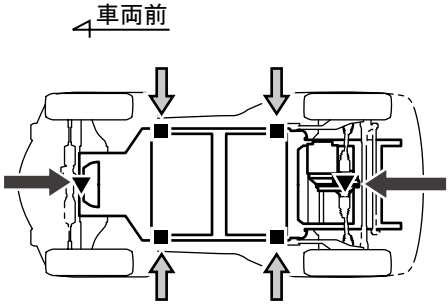


⚠注意

指定以外の位置で固定しないでください。コムスが破損したり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

（4）ジャッキアップ

パンク等の理由でタイヤを脱着するときは、下図のジャッキアップポイント（▼印）およびスタンド支持ポイント（■印）を参照して作業をしてください。



▼：ジャッキアップポイント
■：スタンド支持ポイント

⬅：ジャッキ挿入方向
⇦：スタンド挿入方向

⚠警告

安全に作業する為に、次の内容を守ってください。ケガをする恐れがあります。

- **車両の前・後部をジャッキアップする場合には、必ず輪止めをしてください。**
- **作業は、ジャッキが外れたり倒れたりしないように、平坦で安全な場所で行ってください。**

メ　モ

製品についてのご相談、ご要望は…

本製品やアフターサービスなどについてのご相談、ご要望がありましたら、
次の事項を必ずご確認のうえ、購入店または代理店にご相談ください。
修理や改造等が必要な場合にも、ご相談ください。

製品名およびフレーム番号	ご購入年月日
ご相談内容	お客様のご住所、お名前、電話番号

購入店印

代理店印

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY
特装・福祉センター　特装営業室
0120−100−804
http://www.toyota-body.co.jp
所在地　〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100

受付時間　月曜日〜金曜日
9:00〜12:00／13:00〜17:00

スピードはひかえめに。シートベルトは忘れずに。

01999-DA008